

2019 年度

否定疑問文「(の) ではないか」についての研究

指導教授 高橋雄一

研究科 文学研究科

専攻 日本語日本文学専攻

氏名 凌 飛 (リョウ ヒ)

目次

序論	1
第1章 先行研究の概論.....	3
1.1 はじめに.....	3
1.2 「(の) ではないか」の先行研究.....	3
1.2.1 田野村 (1988)	3
1.2.2 蓮沼 (1993)	4
1.2.3 三宅 (1994)	4
1.2.4 安達 (1999)	5
1.2.5 宮崎 (2000)	5
1.2.6 張 (2004)	6
1.2.7 『日本語文型辞典』による分類.....	7
1.3 文法化に関する先行研究.....	8
1.3.1 大堀 (2005)	8
1.3.2 三宅 (2005)	9
1.4 「じゃん」に関する先行研究.....	10
1.4.1 井上 (1988)	11
1.4.2 松丸 (2001)	11
1.5 おわりに.....	12
第2章 BCCWJによる「(の) ではないか」の実態調査	13
2.1 はじめに.....	13
2.2 「では」類.....	15
2.2.1 文末詞の変化.....	16

2.2.2	夕形との共起.....	16
2.2.3	丁寧形.....	17
2.2.4	終助詞との共起.....	18
2.2.5	「だろう」との共起.....	21
2.3	「じゃ」類.....	24
2.3.1	文末詞の変化.....	24
2.3.2	夕形との共起.....	25
2.3.3	丁寧形.....	25
2.3.4	終助詞との共起.....	26
2.3.5	「だろう」との共起.....	30
2.4	おわりに.....	32
第3章	各バリエーションの使用傾向と使用頻度.....	33
3.1	はじめに.....	33
3.2	文末詞の変化のバリエーション.....	34
3.2.1	「(の)ではない(の)か/の」.....	35
3.2.2	「(の)じゃない(の)か/の」.....	38
3.2.3	まとめ.....	42
3.3	夕形と共起するバリエーション.....	44
3.3.1	「(の)ではなかった(の)か/の」.....	44
3.3.2	「(の)じゃなかった(の)か/の」.....	46
3.4	「丁寧形のバリエーション」.....	48
3.5	終助詞と共起するバリエーション.....	53
3.5.1	終助詞と共起するバリエーション.....	53

3.5.2	終助詞と共起するバリエーションの分布.....	56
3.6	「だろう」と共起するバリエーション.....	59
3.7	おわりに.....	63
第4章	「(の)ではないか」の分類と用法.....	64
4.1	はじめに.....	64
4.2	職場コーパスからの用例収集.....	64
4.3	「(の)ではないか」の分類.....	65
4.3.1	「(の)ではないか」の3分類.....	66
4.3.2	構文上の区別.....	67
4.3.3	文法化の度合い.....	70
4.4	「(の)ではないか」の用法.....	72
4.4.1	「(の)ではないかⅠ」の用法.....	72
4.4.1.1	発見.....	73
4.4.1.2	提示.....	73
4.4.1.3	確認.....	76
4.4.1.4	「～(よ)うではないか」.....	76
4.4.2	「(の)ではないかⅡ」の用法.....	78
4.4.3	各用法間の関係.....	79
4.5	おわりに.....	80
第5章	「じゃん」について.....	81
5.1	はじめに.....	81
5.2	「じゃん」の実態調査.....	81
5.2.1	職場コーパスでの使用実態.....	81
5.2.2	CSJでの使用実態.....	82

5.2.3	CEJCでの使用実態	82
5.3	「じゃん」の用法.....	83
5.3.1	発見の「じゃん」	83
5.3.2	提示の「じゃん」	84
5.3.3	確認の「じゃん」	84
5.4	おわりに.....	85
終章	86
謝辞	88
参考文献	89
参考資料	92

否定疑問文「(の) ではないか」についての研究

凌 飛

序論

「(の) ではないか」という形式は日本語学習者にとっては難しい表現であり、誤用も生じやすい。一つの原因として、バリエーションが多数存在することが考えられる。例えば、「(の) ではないか」のバリエーションとして、「(の) ではないの」、「(の) ではないですか」、「(の) じゃないか」、「(の) じゃありませんか」などが挙げられる。

そしてもう一つ大きな原因として、「(の) ではないか」の用法が多く存在し、使いこなすのが困難であることが考えられる。従来の研究によると、「(の) ではないか」の基本的用法として、発見（例文（1））、確認要求（例文（2））といった用法を持っているという。

(1) これはすごい、純金ではないか。 (『日本語文型辞典』)

(2) A: 同級生に田中さんという女の子がいたじゃないか。

B: ああ、髪が長くてやせた子ね。 (職場コーパス)

しかし、そのどちらにも入りにくい例も存在する。例えば、

(3) 09C: 踏み台の、うー、下の、カバーがですねー、変形していますんでー、歩くときに足をひっかける危険性ありますんで、そのへんの見直しを、あー、されたほうがいいんじゃないかと思います。

(職場コーパス)

(4) 子路としては先ず己の主人を救い出したかったのだ。さて、広庭のざわめきが一瞬静まって一同が己の方を振向いたと知ると、今度は群集に向って煽動を始めた。太子は音に聞えた臆病者だぞ。下から火を放って台を焼けば、恐れて孔叔を舍すに決っている。火を放けようではないか。火を！ (中日対訳コーパス)

例文（3）は話し手自身の意見や見解を表す例であり、新しい発見でも、聞き手に確認要求をしているわけでもない。例文（4）は話し手が自分の主人を救い出すために、放火をする決意を表す例であり、発見と確認のどちらにも入りにくい。さらに、用例（5）～（7）（筆者による作例）は言い換えられ、ニュアンスの差もあまりない。

(5) ここにあるではないか。

(6) ここにあるじゃないか。

(7) ここにあるじゃん。

しかし、「(の) じゃないか」は「(の) ではないか」のバリエーションの一つであるが、「じゃん」は「(の) ではないか」のバリエーションではなく、あくまでその類似表現である。そうすると、「(の) ではないか」と「じゃん」は意味・機能において、完全に重なるのか、両者の間には相違点がないのか、という問題を究明する必要も出てくる。

筆者は修士課程から「(の) ではないか」を扱っており、修士論文で「(の) ではないか」の用法を記述的にまとめた。しかし、当時、例文を収集する際に利用したのは「中日対訳コーパス」であり、そのデータは全て古い小説であるため、妥当性に欠ける部分もあると考える。したがって、今回はコーパスを増やし、更に深い調査を行い、「(の) ではないか」の用法と分類を再検討する。

なお、本論の構成は以下の通りである。

第1章では、「(の) ではないか」と「じゃん」に関する先行研究をまとめる。

第2章では、現代日本語書き言葉均衡コーパス（以下はBCCWJと呼ぶ）を用いて、「(の) ではないか」のバリエーションを調査し、整理する。

第3章では、BCCWJから収集した「(の) ではないか」のバリエーションが各レジスターにおける分布を見て、それぞれの使用頻度と使用傾向を明らかにする。

第4章では、「女性のことば__男性のことば__職場編」（以下は職場コーパスと呼ぶ）¹という会話コーパスから収集した用例を分析し、「(の) ではないか」の新たな分類法を試みる。そして、各分類の相違点及び各用法間の関係についても論じる。

第5章では、「(の) ではないか」の類似表現である「じゃん」について述べる。まず、日本語話し言葉コーパス（以下はCSJと呼ぶ）等を用いて「じゃん」の実態調査を行う。そして、CSJと職場コーパスから収集した用例を分析し、実際に使われる「じゃん」の用法をまとめる。最後に、「(の) ではないか」と「じゃん」と比較を行い、両形式の相違点を明らかにする。

¹ 本研究が使用したのは『合本 女性のことば・男性のことば（職場編）』付属のCD-ROMのデータである。現在、中納言において、現日研・職場談話コーパス（職場コーパス）としても使用できる。

第1章 先行研究の概論

1.1 はじめに

本章では、本研究と関係する先行研究を記述し、整理する。まず 1.2 において、「(の)ではないか」の意味・機能と関係のある先行研究を記述し、本研究で扱う研究対象を明らかにし、更に筆者の「(の)ではないか」の分類基準を明らかにする。次の 1.3 において、文法化と関係する先行研究を扱い、「(の)ではないか」の各分類の文法化の度合いの論述に理論づける。最後の 1.4 において、「じゃん」の先行研究を扱う。

1.2 「(の)ではないか」の先行研究

この節において、「(の)ではないか」の分類、意味・機能に関する先行研究として、田野村 (1988)、蓮沼 (1993)、三宅 (1994)、安達 (1999)、宮崎 (2000) と張 (2004) を挙げる。さらにグループジャマシイ (1998) による『日本語文型辞典』での分類方法を扱う。

1.2.1 田野村 (1988)

田野村 (1988) は、「(の)ではないか」²という形式を含む全ての否定疑問文に関して、全般的に考察し、「(の)ではないか」を構文・音調・意味上の区別から 3 分類している。

第 1 類：発見した事態を驚きなどの感情を込めて表現したり、ある事柄を認識するよう相手に求めたりするものである。「よう、山田じゃないか。」「何をする、危ないじゃないか。」「自分から言い出したんじゃないか。」(下線は筆者によるものである。以下も同様)

第 2 類：推定を表す。「(不審な様子から) どうもあの男犯人じゃないか?」「(空模様を見て) 雨でも降るんじゃないか?」

² 田野村 (1988) では「ではないか」という表記を使用している。

第3類：「ない」が否定辞本来の性格を発揮する。「(1は素数でないことを教えられて) そうか、1は素数じゃないか。」「(1ガ素数デナイト君ハ言ウが得心デキナイ) 本当に1は素数じゃないか？」

この「(の) ではないか」についての3分類は後の研究に非常に有益だと思われる。本研究における「(の) ではないか」の用法分類は田野村(1988)を基本とする。

また、田野村(1988)によると、第1類の「(の) ではないか」は体言または用言に接続するのに対し、第2類の「(の)」ではないか」は体言に接続するのみであるため、用言に接続する場合、「のだ」を含まなければならない。この場合の「の」が「のだ」の「の」と同一視すべきものであることを指摘している。また田野村(1990:第10章)でも「のではないか」に含まれる「のだ」には本来の文法的な機能はなく、「のではないか」は「のだ」を含む形で複合辞化していると論じている。しかも、「ではないか」自体も「のだ」は分化するので、第1類は必ずしも「の」がないとは、また第2類は必ずしも「の」が含まれてくるとは一概に言えないため、本研究において、「(の) ではないか」のような表記をとることにする。

1.2.2 蓮沼(1993)

蓮沼(1993)は「共通認識喚起」という機能を持つ2つの形式「ではないか」と「だろう」の用法及びその派生について考察を行っている。

蓮沼(1993)は「ではないか」と「だろう」の用法を比較しながら、「(の) ではないか」には発見の驚き、話し手の評価、伝聞情報確認と意志決定・勧誘の表明という4つの固有の用法を有していることを指摘している。そして、「(の) ではないか」は「だろう」と共有される用法として、現場の対象についての認識喚起、既存の共通知識の喚起、共通判断の喚起、想定世界の共有喚起と談話世界の共有喚起という用法があることも論じている。

蓮沼(1993)は「ではないか」の用法を概観したが、その用法を分類する基準は明確にされていない。

1.2.3 三宅(1994)

三宅(1994)では、他の形式による確認要求の表現との相関に注目しながら、「ではないか」という形式を伴った否定疑問文が確認要求的表現としての意味・機能を有する場合の諸相について記述的に論述している。三宅(1994)は「(の) ではないか」を意味・機

能において大きく「デハナイカⅠ類」と「デハナイカⅡ類」の2種類に分けている。その分類は下の表1の通りである。

表1 (三宅 1994) による「(の)ではないか」の分類

デハナイカⅠ類	驚きの表示	
	知識確認の要求	「潜在的共有知識の活性化」
		「認識の同一化要求」
弱い確認の要求		
デハナイカⅡ類	推測	
	命題確認の要求	

この分類は田野村(1988)の類別に基づくものである。「デハナイカⅠ類」は田野村(1988)の第1類に相当し、「デハナイカⅡ類」は田野村(1988)の第2類に相当する。本研究も「(の)ではなか」の分類を行う際に、三宅(1944)を参考にする。

1.2.4 安達(1999)

安達(1999)によると、「(の)ではないか」は実現する話し手の判断を聞き手に持ちかけ、認識を要求したり確認を求めたりする確認要求の形式であり、示唆的な見解を提示するものである。しかし、安達(1999)は主に「(の)ではないか」の確認要求用法について論じているが、それ以外の用法についてあまり論じていない。

1.2.5 宮崎(2000)

宮崎(2000)は、現代日本語における確認要求表現の位置づけについて考察している。宮崎は確認要求表現を聞き手誘導型と聞き手依存型の2類型に分類し、「デハナイカ」の他に、認識系確認要求表現「ダロウ」、「ノデハナイカ」と「ネ」、当為系確認要求表現「ダロウネ」、「ヨネ」、「ノデハナイダロウネ」と「ノデハナカッタカ」を扱っている。

宮崎(2000)によると、「デハナイカ」は他の認識要求表現と区別され、聞き手誘導型に属し、また意志表現と共起したり、聞き手の存在を前提としない自己確認に使用できる点でも、他の表現と異なるという。

また「デハナイカ」は確認要求表現として、話し手内部での認識確立(自己確認)と聞

き手を巻き込んでの認識確立とがあるという。この点は次に紹介する張氏の主張と共通しているとも言える。張氏は「(の) ではないか」の用法を分類する際に、聞き手に共通認識を要求するか否かを基準としている。要するに、聞き手を巻き込むか否かの問題でもある。

1.2.6 張 (2004)

張 (2004) は「ではないか」について全般的に調査を行い、話し手が聞き手に共通認識を要求するか否かを基準に、それまで研究されてきた確認用法及び指摘されていない確認以外の用法について述べている。張氏による「ではないか」は、田野村 (1988) の第1類に当たる。田野村 (1988) の第2類にあたるものは「のではないか」と表記し、張 (2004) で研究を行っている。

張氏は聞き手に共通認識を要求しない場合、「ではないか」の用法を発見、評価の提示、判断結果の提示、自己所有情報の提起に分け、聞き手に共通認識を要求する場合、「ではないか」の用法を共有知識の確認要求と認識の同一要求に分けている。更に、張氏は「のではないか」の用法を推測、問いかけと婉曲表現の3種類に分けている。なお、張氏による分類の詳細を次のようにまとめる。

表2 張氏による「(の) ではないか」の分類

ではないか	発見	
	評価の提示	
	判断結果の提示	
	自己所有情報の喚起	
	認識の確認要求	①共有知識の確認要求 ②認識の同一要求
のではないか	推測	
	問いかけ	①意見要求 ②確認要求
	婉曲表現	

こうして、張 (2004) は「(の) ではないか」の用法を全般的に考察している。また、全ての用法が厳密に区別できるものではなく、相互に連続するものであるとしている。筆者

は張 (2004) によるこの分類方法は参考になると考え、本研究において「(の) ではないか」の意味・機能について考察する際、聞き手に共通認識を要求するか否かの基準を参考し、新たな分類方法を試みたいと思う。

ただし、張 (2004) の中の例文は主に「中日対訳コーパス」から収集した小説の例文である。実際の会話においては異なる面もあるのではないかと考え、本研究では、職場コーパスという会話コーパスから用例を収集する。日本人母語話者が日常生活で実際に使用する用例を分析し、「(の) ではないか」の用法を明らかにする。

1.2.7 『日本語文型辞典』による分類

グループジャマシ (1998) による『日本語文型辞典』は「(の) ではないか」について、接続から用法まで詳しく紹介している。項目として「ではないか 1」「ではないか 2」「ではないだろうか」「ではなかったか」「ではなかろうか」「ではあるまいか」などがある。本研究においては、直接関係のある「ではないか 1」と「ではないか 2」をまとめることにする。

表 3 『日本語文型辞典』による「(の) ではないか」の分類

ではないか 1 (N/Na/A/V) ~	驚き・発見	やあ、大野君 <u>ではないか</u>
	非難	A: 遅かった <u>じゃないか</u> 。 B: あの、道が混んでいたんです。
	確認	地下道などによくいる <u>ではありませんか</u> 。あ あい男が。
	ようではないか	とにかく、最後まで頑張ってみ <u>ようではないか</u> 。
ではないか 2 (N/Na(なの)) ~ A/V の~)	ではないか (推測的な判断)	あそこを歩いているのは、もしかして山下さん <u>ではないか</u> 。
	ではないかと思う (判断を表す)	こんなうまい話しは、嘘 <u>ではないか</u> と思う。

『日本語文型辞典』でいう「ではないか 1」と判断を表す「ではないかと思う」は田野村 (1988) の第 1 類に、推測的な判断を表す「ではないか 2」は田野村 (1988) の第 2 類に相当する。本研究は「(の) ではないか」の各用法のニュアンスの分析をする際、これを参

考にする。

以上、「(の)ではないか」の分類、意味・機能に関する先行研究を整理した。次の 1.3 において、日本語の文法化に関する先行研究を整理する。

1.3 文法化に関する先行研究

文法化とは内容語から機能語への変化、すなわち自立性をもった語彙項目が付属語となり、文法機能を担うようになる現象である。この節において、大堀 (2005) と三宅 (2005) を挙げる。

1.3.1 大堀 (2005)

大堀 (2005) は、文法化の典型例を「自立性をもった語彙項目が付属語となって、文法機能を担うようになるケース」すなわち脱語彙化と規定し、その基準として、意味の抽象性、範列の成立、標示の義務性、形態素の拘束性、文法内での相互作用を挙げている。なお、文法化の度合いを表すものを下の表 4 に示す。

表 4 大堀 (2005) による文法化の度合い

←低い		高い→
具体的	意味・機能	抽象的
開いたクラス	範列の成立	閉じたクラス
随意的	標示の義務性	義務的
自由形式	形態の拘束性	拘束形式
相互作用なし	文法内の相互作用	相互作用あり

表 4 は文法化が進んだ場合にどうなるかを判断するものである。大堀 (2005) を参考にしながら、文法化が進むとどうなるかを詳しく見ていく。

まず、意味・機能面において、文法化が進むと、語彙としての具体的な意味が抽象的になる。例えば、「ところだ」は具体的な場所の意味がなく、抽象的な状況・時間を表すようになっている。

次に、範列の成立となる。大堀（2005）による「範列」とは、パラダイムとも言い、代名詞や格助詞のように、一定の文法機能を表し、相互に対立する少数のセットである。例えば、「ます」などでは「敬語」という閉じたセットに組み込まれている。

更に、標示の義務性とは、特定の形態素による標示が、ある機能を表すために要求されることである。例えば、文法化の結果として、現代ではフランス語の「pas」は否定を表すのに不可欠である。日本語でいうと、「たち」や「ら」は複数の標示が義務的ではないため、文法の一部にならない。

そして、形態素の拘束性は、「自立語から付属語へ」という変化そのものである。例えば、「について」のように動詞テ形や連用形が名詞句の役割を標示する際には、通常の「つく」という動詞の属性がいくつか欠如し、「否定形になれない」などのような拘束性が現れてくる。

最後に、文法内の相互作用である。文法化が進むと、もともと相互作用のないものがあるようになる。例えば、否定の呼応現象はこのうちに入る。

本研究は大堀（2005）が挙げている文法化の基準に沿って、本研究の研究対象である各種類の「(の) ではないか」の文法化の度合いについて論じる。

1.3.2 三宅（2005）

三宅（2005）は、現代日本語における「文法化」の諸相について、特に内容語と機能語の間のカテゴリーの連続性に着目し、それに関する共時的な研究の意義を述べている。三宅（2005）によると、現代日本語における文法化は大まかに「助詞化」と「助動詞化」の2種類に分けることが出来る。

まず、助詞化には、格助詞化、接続助詞化、終助詞化があるが、終助詞化は少数であるため、三宅（2005）は格助詞化と接続助詞化の2種類にしぼって考察している。格助詞化とは、もともと動詞であったものが固定的な形をとり、複合格助詞化することである。例えば、「～において、について、によって」のようなものがある。そして、接続助詞化とは、名詞が脱範疇化し、接続助詞化するということである。例えば、「たところ、わりに」などがある。

次に、助動詞化になるが、三宅（2005）は形態に基づき、それを「名詞+だ」、「テ形接続の補助動詞」、「複合動詞の後項」及び「その他」の4種類に分けている。それぞれの具体例は次のページの表5に挙げるので、ここでは詳しく挙げないことにする。

最後に、三宅（2005）は「らしい」（よく似た意味を持つ「っぽい」、「くさい」）のようなものは、名詞に付く接尾辞から変化して助動詞化したものであるが、この変化を文法化と呼ぶべきかどうかという問題があることを指摘している、その解答は保留するという事になっている。

以上のことをまとめると、以下の表5のようになる。

表5 文法化の諸相

文 法 化	①助詞化	a 格助詞（複合格助詞）化：～において、について、によって…	
		b 接続助詞化：ところ、かぎり、わりに…	
		c 終助詞化：かしら	
	②助動詞化	a 名詞+だ：ようだ、はずだ…	
		b テ形接続の補助動詞：～ている、～てある…	
		c 複合動詞の後項：～かける、～だす…	
		d その他	d' 内容語を含む複数の形態が合成され、助動詞化しているもの： かもしれない、にちがいない…
			d'' 句相当の表現が、ひとまとまりの助動詞的な表現になっているもの： ～がする（気がする）、～がある（可能性がある）…
	③保留問題	文法化であるかどうか問題になるもの：（男）らしい…	

「(の) ではないか」は「助動詞化」の「d その他」に当たるが、文法化の度合いについての詳しい分析は、後の第4章において行う。

以上の1.3において、文法化に関する先行研究を述べた。次の1.4では、「じゃん」に関する先行研究を述べる。

1.4 「じゃん」に関する先行研究

この節において、井上（1988）と松丸（2001）を扱う。

1.4.1 井上 (1988)

井上 (1988) によると、明治末期に大阪あたりで「やんか」が先に、大正か昭和初期に東海地方で「じゃんか」が、戦前に東海地方で「じゃん」になり、戦後に関西で「やん」が生じた。「じゃんか」「やんか」系統が生まれるのは関西が早かったが、「か」を落とすのは東海地方が早かったという。

そして、昭和初期に浜松の女工さんたちの新鮮な言葉づかいとして、「じゃん」は静岡県から横浜に伝わり、更に東京に入ったという。本研究で扱う「じゃん」は方言としての「じゃん」ではなく、東京で使用される「じゃん」である。東京の「じゃん」についての研究はとして、松丸 (2001) を参照する。

1.4.2 松丸 (2001)

松丸 (2001) は田野村 (1988) の言う「(の) ではないか」との対照を通じて、東京方言で用いられている「じゃん (か)」について考察し、両形式が形態的・意味的異同を明らかにしている。松丸 (2001) によると、「じゃん (か)³」は「(の) ではないか」に比べると、形態的に制約され、また狭い範囲の意味・用法でしか用いられないという。そして、「じゃん」と「じゃんか」は異なり、「じゃんか」は認識が対立している状況でしか用いられないのに対し、「じゃん」は話者の認識を提示する機能を担うと述べている。

まず形態的な異同として、「(の) ではないか」は「か」が終助詞の「の」に置き換えられ、また「か」を省略することも可能であるのに対し、「じゃん (か)」は「か」の省略が可能であるが、「の」に変えることはできない。

そして、「(の) ではないか」は「ない」を「なかった」に置換でき、さらに「か」を「のか/かな/かしら/だろうか/でしょうか」に置換できるのに対し、「じゃん (か)」の「か」はそれらに形式に置換することもできない。松丸 (2001) によると、「じゃん (か)」の「か」を「ね」に置換することもできないというが、実際のところ、どうなっているかを後の第5章で検証する。

最後に、2人称に使用できない制限はあるが、「じゃん」は上昇イントネーションをとり、

³ 「じゃん (か)」田野村 (1988) の第1類の「(の) ではないか」に相当し、「じゃん」は田野村 (1988) の第2類に相当する。

「(の) ではないか」と同様に推定を表すことができると述べている。その検証も後の第5章で行う。

1.5 おわりに

第1章において、本研究と関係する先行研究を記述し、整理した。1.2では、「(の) ではないか」の意味・機能と関係のある先行研究を記述し、本研究で扱う研究対象を明らかにし、更に筆者の「(の) ではないか」の分類基準を明らかにした。次の1.3では、文法化と関係する先行研究を扱い、「(の) ではないか」の各分類の文法化の度合いの論述に理論づけた。最後の1.4において、「じゃん」の先行研究を扱い、本研究の検証すべき課題を明らかにした。

第2章 BCCWJによる「(の)ではないか」の実態調査

2.1 はじめに

「(の)ではないか」にはバリエーションが多く存在するが、従来、「(の)ではないか」とそのバリエーションの区別をしながら、記述する研究はほとんどなく、全て代表形式の「(の)ではないか」に集約されている。この章では現代日本語書き言葉均衡コーパス（以下はBCCWJと呼ぶ）を用いて、実際に使われる「(の)ではないか」のバリエーションを調査し、整理する。

共通語で使用される「(の)ではないか」のバリエーションとして、「(の)ではない(だろう/でしょう)か(かな/かしら)」、「(の)ではない(?/の)」、「(の)ではないですか」、「(の)ではありません(か/?)」、「(の)じゃない(です)か」、「(の)じゃない(?/の)」などが考えられる。このように、バリエーションはかなり多いが、構造⁴から見ると、大きく非縮約形の「では」類と縮約形の「じゃ」類に分けることができる。さらに、含まれる要素によって細かく分けると、それぞれ「文末詞の変化」、「タ形との共起」、「丁寧形」、「終助詞との共起」及び「「だろう」の共起」という下位分類が考えられる。それを簡単にまとめると、次のページの表6になる。

⁴ ここにおいては、「(の)ではないか」の意味・機能上における違いを一切考えないことにする。

表6 「(の) ではないか」のバリエーションの分類

分類	下位分類	代表の形
「では」類	A1 文末詞の変化	～(の) ではない <u>か</u>
		～(の) ではない <u>の</u>
		～(の) ではない <u>のか</u>
	A2 タ形との共起	～(の) ではな <u>かった</u> か
	A3 丁寧形	～(の) ではな <u>い</u> ですか
		～(の) では <u>ありませ</u> んか
	A4 終助詞との共起	～(の) ではない <u>かな</u>
		～(の) ではない <u>かしら</u>
		～(の) ではない <u>かね</u>
		～(の) ではない <u>かい</u>
		～(の) ではない <u>かよ</u>
		～(の) ではない <u>かの</u>
		～(の) ではない <u>かのう</u>
	A5 「だろう」との共起	～(の) ではない <u>だろう</u> か
	「じゃ」類	B1 文末詞の変化
～(の) じゃな <u>いの</u>		
～(の) じゃな <u>いのか</u>		
B2 タ形との共起		～(の) じゃな <u>かった</u> か
B3 丁寧形		～(の) じゃな <u>い</u> ですか
		～(の) じゃ <u>ありませ</u> んか
B4 終助詞との共起		～(の) じゃな <u>いかな</u>
		～(の) じゃな <u>いかね</u>
		～(の) じゃな <u>いかしら</u>
		～(の) じゃな <u>いかよ</u>
B5 「だろう」との共起		～(の) じゃな <u>いだろう</u> か

上の表6から見ると、種類はかなり多くなるが、実は表に羅列した形式に限らず、更に

複雑な形式も存在する。バリエーションのそれぞれが単独に存在するのではなく、複合することも多い。例えば5つの要素が全部入るものとして、「(の) ではなかったでしょうかね」が考えられる。しかし、実際のところ、考えられる形は全部使われているとも限らないし、また全てのバリエーションが偏りなく使われているとも言えない。この章では、BCCWJを用いて実際に使われている形式を整理する。

2.2でBCCWJから収集した「では」類を見て、2.3では「じゃ」類について見る。

2.2 「では」類

BCCWJから用例を収集する際に、コーパス検索アプリケーション「中納言」を使用した。「中納言」には短単位検索、長単位検索及び文字列検索等が存在するが、今回の調査対象である「(の) ではないか」の場合、文字列検索を使って検索すると、「ではないから」などのような例も出てくる。こういうことを避けるために、本研究は文字列検索でなく、短単位検索を用いる。例えば、「(の) ではないか」の用例を検索する際に、「(の) ではないか」を語彙素の「だ」、「は」、「無い」、「か」、に分け、それぞれの品詞と活用形を設定して収集した。その条件は以下の表7に示す。

表7 「(の) ではないか」の検索条件

キー：	語彙素（だ）＞品詞の小分類が助動詞＞活用形（小分類が連用形・一般）
後方共起1：	語彙素（は）＞品詞の中分類が助詞・係助詞
後方共起2：	語彙素（無い）＞品詞の中分類が形容詞・非自立可能＞活用形（小分類が終止形・一般）
後方共起3：	語彙素（か）＞品詞の中分類が助詞・終助詞
後方共起4：	品詞の大分類が記号/補助記号/空白

その他のバリエーションについて検索する場合も表7の「(の) ではないか」のように、細かい語彙素に分けて、品詞と活用形を設定して調査を行う。

短単位検索で「では」類の用例を25771例抽出したが、ここから「文末詞の変化」、「タ形との共起」、「丁寧形」、「終助詞との共起」及び「「だろう」との共起」という順で詳しく見ていく。

2.2.1 文末詞の変化

「(の) ではないか」は「終助詞」の「か」で終わるものだけでなく、「の」と「のか」で終わる形も存在する。今回は「(の) ではないか」15126例、「(の) ではないの」⁵11例、「(の) ではないのか」593例を収集できた。その用例は以下に示す。

(8) 「伯父上、あれを」 市之允は目の先に異変を見つけて指差した。イギリス船から、目の覚める紺青色のバツテイラ（小船）が降ろされ、こちらに向かってくるではないか。他の船員たちも気づき、騒ぎ始めた。（BCCWJ 出版・書籍 秋山香乃(著)）

(9) 「あなたの顔色はよくありません。心臓がお悪いのではないの？」

「あいにく、この年まで病気をしたことがない。ご丁寧な心配は無用だ」

（BCCWJ 図書館・書籍 門田泰明(著)）

(10) ここの場合は名簿に書くだけだが、「許可証」を発行する署もある。こういうことは本州ではありえない。遭難対策という意味では警察への届けだけで十分ではないのか。

（BCCWJ 図書館・書籍 本多勝一(著)）

以上の文末詞が異なる用例の数を見ると、「(の) ではないか」という形式が最も多く使われていることが分かった。次の2.2.2において、テンスが分化する場合のバリエーションを整理する。

2.2.2 タ形との共起

「(の) ではないか」はテンスが分化しており、過去・非過去を表すものがある。非過去は「(の) ではないか」の形をとり、過去を表す場合、「(の) ではなかったか」の形を取る。今回は「(の) ではなかったか」を227例、「(の) ではなかったの」を9例、「(の) ではなかったのか」を140例収集できた。その具体例は以下の(11)～(13)である。

(11) こうした当代一流の学者の意見に示されるように、縄文時代（石器時代）に農耕がおこなわれていたという考え方は明治・大正期ではごく普通ではなかったか。

（BCCWJ 図書館・書籍 戸沢充則(著)）

(12) 「あれ」弥平太の云うのを聴いて、常磐はおどろいたように声をあげた。「平太さん

⁵ 「(の) ではないの」の用例を検索する際に、文末に使うものに限定し、最後の条件に「補助記号」を入れたが、それでも、「リード…私はあなたがボスだから拒んだわけではないの」のような否定を表す用例が出てきた。こういう用例を削除した結果、11例となった。

はわたしの居所を、かかさんから聞いたのではなかったの？」

(BCCWJ 図書館・書籍 安西篤子(著))

(13) これだけのツナの缶詰めをどうしようというのだろう？ビル・ロイスが密輸していたのは、麻薬だけではなかったのか？そこでわたしは、ダリル・ロイスが言っていたことを思い出した。(BCCWJ 図書館・書籍 リック・ボイヤー(著)/田口俊樹(訳))
テンスが分化する場合の用例数を見ると、「過去」の形式より、「非過去」の方が使用されることが分かった。次の2.2.3で「では」類の丁寧形のバリエーションを整理してみる。

2.2.3 丁寧形

「(の) ではないか」は丁寧な形も存在しており、「ではないですか」と「ではありませんか」の2通りが考えられる。今回は「(の) ではないですか」595例、「(の) ではないのですか」225例を収集した。「(の) ではないのです」の形は検索してみたところ、一例もなかったため、この形は実際に使われないうちでいいと思われる。「(の) ではありませんか」は688例を収集した。「(の) ではありませんの」は2例収集できた。(11)～(14)は収集した形の用例である。

(14) 柚木は確信していた。背後で操ったのは丹波教授である。「言いにくいのですが、辻原研究員は教授の手先だったのではないですか。」「考えられない」須永部長は無言のまま首を横に振った。(BCCWJ 図書館・書籍 山崎光夫(著))

(15) 「僕たちは書類でしかお宅の会社がわかりませんから。ほら、主要取引銀行が自宅からすぐのところでしょう。てっきり自宅が事務所だと思ったんです。あと、建物の一階が店舗ではないのですか。帳簿を見ると売り上げが計上されていない。まあ、そんなわけでご自宅にうかがったのです」(BCCWJ 図書館・書籍 高畑啓子(著))

(16) 砂におちた なみだから、みるみる水が わき出して、小さな泉になったではありませんか。「み、水だっ。」探険家は、泉にかけよると、コンコンとわき出る水に口をつけました。(BCCWJ 図書館・書籍 米山博好(著))

(17) 「大王様には姉のヤタヒメがお仕えしているではありませんの。どうして私が要りますの」(BCCWJ 出版・書籍 石川逸子(著))

前にも述べたように、「(の) ではないか」の各バリエーションは単独に存在するのではなく、複合した形も存在する。テンスの形と丁寧形も複合できる形式の一つである。「(の) ではなかったですか」などのような形も存在する。今回は「(の) ではなかったですか」を

10例、「(の)ではなかったのですか」を24例、「(の)ではありませんでしたか」を10例収集した。「(の)ではありませんでしたか」の用例はなかった。

(18) ドラえもんの最終回ってドラえもんの電池が切れて、ノビタが科学者になって助けるというのではなかったですか。(BCCWJ 特定目的・知恵袋)

(19) 「倉脇先生から受け取った解剖報告書が、ヘリの中にあるから、帰京したら目を通しておいてくれ」「お持ちになるのではなかったのですか。」「君に預けておくよ。さ、行きたまえ」黒木に促されて、沙霧はヒュイコブラの方へ歩き出した。

(BCCWJ 図書館・書籍 門田泰明(著))

(20) 女性が馬に乗っているCMではありませんでしたか。(BCCWJ 特定目的・知恵袋)

以上は「では」類の丁寧形の2形式について見たが、「ではありません」の形式より、「ではないです」の形式の方が使用されていることが分った。次の2.2.4において、終助詞と共起する「では」類のバリエーションについて見る。

2.2.4 終助詞との共起

「(の)ではないか」は「ね」「よ」などのような終助詞と共起できる。BCCWJで検索したところ、「な」、「かしら」、「ね」、「かい」、「よ」、「のう」と共起する用例は見つかったが、「さ」「ぞ」と共起する用例は見つからなかった。今回は「(の)ではないかな」を365例、「(の)ではないのかな」を85例、「(の)ではないかしら」を63例、「(の)ではないのかしら」を9例、「(の)ではないかね」を25例、「(の)ではないのかね」を13例、「(の)ではないかい」を6例、「(の)ではないかよ」を1例、「(の)ではないかのう」を1例、「(の)ではないのかのう」を1例収集した。以上の結果をまとめると、下の表8になる。

表8 「(の)ではないか」と助詞の共起

	な	かしら	ね	かい	よ	のう
(の)ではないか	365	63	25	6	1	1
(の)ではないのか	85	9	13	0	0	1
計	450	72	38	6	1	2

表8で示した順に、用例を一例ずつ挙げる。

(21) 彼はバッチリ、気を失ったのである。バッチリと、気を失う、っていうのが文法

的に正しいのではないかな?でも、ハードに限っていえばそうじゃなかった。彼はバッチリ、気を失ったのである。

(BCCWJ 図書館・書籍 E・ウェイナー(著)/平尾圭吾(訳))

(22) 裏切られても自分の行為を踏みにじられても・・・それでもそのひとのことを想うことそれが信じること・・・愛ではないのかな? (BCCWJ 特定目的・ブログ)

(23) 「うれしいですわ。夢ではないかしら。こんないいことが、あつていいのかしら」

(BCCWJ 図書館・書籍 志茂田景樹(著))

(24) シチリアについて、俺、まったくなんの知識もなかったんだ 啓一が今日訪ねて来たのは、第一に祖母への見舞が目的だったろうけれど、もう一つ、ぜひとも町子に語りたことがあったからではないのかしら。(BCCWJ 図書館・書籍 阿刀田高(著))

(25) そのことは、この時代で唯ひとり《大なる秘法》を極めた、あなたが一番知っているのではないかね」 (BCCWJ 図書館・書籍 千葉暁(著))

(26) どうも大阪では、実戦的修業を数多くこなしているからだろう。東京では、理屈が多くて、花ばかりを求めすぎるのではないかね。

(BCCWJ 出版・書籍 菅篤哉(著))

(27) これ、明確な人種差別ではないかい?

(BCCWJ 特定目的・知恵袋 Yahoo!知恵袋)

(28) 「さっきから黙ってきいていれば、おめえさまもあんまりなことおっしゃるではねえかよ。おらが田舎者で、きたねえだなんて、そつたら失礼なこと言うもんでねえだよ。おらはこれでも十分に身ぎれいにしているつもりだ」

(BCCWJ 図書館・書籍 清水義範(著))

(29) 「そうではないかのお、ようは知らんが…」鈴田はそういった上、「しかし、わが家名には誇りがあるでな、戦国以来の武勲がある。

(BCCWJ 特定目的・ベストセラー 堺屋太一(著))

(30) そんな方々にとってはその記述がさらに詳しうなるためにも、ご老体にはもっと島にいてほしいのではないのかの。まあまあ、待てば海路の日和かなじゃよ。

(BCCWJ 出版・書籍 鷹野良宏(著))

以上は各終助詞と「(の)ではないか」と共起する用例を見たが、終助詞も「(の)ではないか」の形とのみ共起するのではなく、夕形や丁寧形と一緒に共起することも出来る。今回は検索をかけてみた結果、「(の)ではないですか」を3例、「(の)ではないですかね」

を19例、「(の)ではないのですかね」を7例、「(の)ではなかったかな」を10例、「(の)ではなかったかしら」を1例、「(の)ではなかったのかな」を7例、「(の)ではなかったのかしら」を2例、「(の)ではなかったのかね」を4例、「(の)ではなかったですかね」を2例収集できた。その他の形式は収集できなかった。終助詞と共起する形をまとめた結果は下の表9になる。

表9 終助詞との共起する「(の)ではないか」のバリエーション

	な	かしら	ね	かい	よ	のう
(の)ではなかったか	10	1	0	0	0	0
(の)ではなかったのか	7	2	4	0	0	0
(の)ではないですか	3	0	19	0	0	0
(の)ではないのですか	0	0	7	0	0	0
(の)ではなかったですか	0	0	2	0	0	0
(の)ではなかったのですか	0	0	0	0	0	0
計	20	3	32	0	0	0

表8と表9を比較すると、「(の)ではないか」の形は終助詞と共起しやすい、「(の)ではないか」のその他のバリエーションも終助詞と共起できるが、具体例が少なく、共起しにくいと言える。特に、「(の)ではなかったかしら」は1例あったが、その用例(27)は特定目的・韻文に使われており、普通の場面では使用されにくいことが分かる。なお、収集した用例を表4の順に1例ずつ挙げる。

(31) このときって確か私幼稚園の年長ではなかったかな、ゲーマーは小学校低学年からで、今で言うCEROがBのゲームを普通に低学年のときからやっていたね。

(BCCWJ 特定目的・ブログ)

(32) 「おや、さっき腰を抜かしていたあの男は、父親が勝手に決めた相手ではなかったのかな?」メロヴェは、むっと口を尖らせた。(BCCWJ 出版・書籍 榛名しおり(著))

(33) 「ふーん、志津代さんの…しかし、彼女と雪子さんは、もうだいぶ前に帰られたのではないですか?」(BCCWJ 出版・書籍 内田康夫(著))

(34) ミルキー・ウェイが嵩を増す空子どものころ何か間違えたせいではなかったではなかったかしらとと子どものころ居た町を歩きながら疑問符よりもはやくとどいた言葉

にとられる

(BCCWJ 特定目的・韻文)

(35) 「じつはあの子、息子じゃなかったのよ」

「えっ」と私は絶句する。実子ではなかったのかしら。

(BCCWJ 出版・書籍 波多江伸子(著))

(36) 「ところであの暴漢についてなにかお心当たりはありますか」

「まったくない。あれは一種の通り魔ではなかったのかね。むしゃくしゃして通行人をいきなり襲ったという例がよくあるじゃないか」

(BCCWJ 図書館・書籍 森村誠一(著))

(37) 結局、彼らの抑えてきたものが、家康の誘導で一気に噴き出したというわけで、もう彼らは嬉しくてしょうがなかったのではないですかね。

(BCCWJ 出版・書籍 実著者不明)

(38) 外見であれば、目つきとか染毛や長髪派手なトレーナーとか、細い眉毛とか外見でなければ、男言葉であるとか歩き方、立ち居振る舞い、人間関係の構築の仕方であるとかではないのですかね？

(BCCWJ 特定目的・知恵袋)

(39) 「詳しい内容は覚えていませんが、事件があったことは知っています。警視、あの事件はたしかまだ未解決ではなかったですかね…」

(BCCWJ 図書館・書籍 龍 一京(著))

以上で終助詞が共起する「では」類のバリエーションを整理した。単なる「(の) ではない(の) か」の場合、終助詞「な」と共起しやすい。しかし、二つ以上の要素が入るバリエーションになると、全体的に終助詞と共起しにくくなるが、「な」に変わり、「ね」との許容度が高くなる。次の2.2.5において、「だろう」と共起する「では」類のバリエーションを整理する。

2.2.5 「だろう」との共起

「(の) ではないか」は終助詞だけでなく、モダリティ形式「だろう」とも共起できる。今回は「(の) ではないだろうか」を2219例、「(の) ではないのだろうか」を49例収集した。その用例は(40)と(41)である。

(40) 横田基地周辺で騒音の野放し状態が、とくに夜間についてはかなり規制されてきた一因には、この判決が出されたことも影響しているのではないだろうか。人は誰でも「わたしは、わたしの生活の主人公だ」と胸を張って言えるはずだ。

(BCCWJ 図書館・書籍 実著者不明)

(41) 「生まれてきたから、生きる」では、何の考えもないように見えるが、人として生まれ、人として生きる中で、人ができる最高のことを成し遂げようとするのも、生きることの意味ではないのだろうか。 (BCCWJ 図書館・書籍 谷川浩司(著))

また、「(の) ではないか」が「だろう」と共起する場合、「(の) ではないだろうか」の形以外に、「(の) ではなかろうか」という形もある。今回は「(の) ではなかろうか」の用例を 1287 例収集した。下の (42) はその用例である。

(42) おそらく彼は、プリスキラとアクラの家^に世話になり、そこで働きつつ一家をなしていったのではなかろうか。 (BCCWJ 図書館・書籍 木下順治(著))

「だろう」の丁寧形として「でしょう」がある。「(の) ではないか」は「でしょう」とも共起できる。今回は「(の) ではないでしょうか」を 4203 例、「(の) ではないのでしょうか」を 199 例収集した。

(43) 「あなたは、そのような遺言状を作成するよりも、やはりカトリック神父のところへ行って相談したほうがいいのではないのでしょうか。 ちなみに私はプロテスタントですが…」 (BCCWJ 図書館・書籍 ホセ・ヨンパルト(著))

(44) じゃあ表現という言葉は現実的ではないのでしょうか？

(BCCWJ 図書館・書籍 赤羽建美(著))

その他のバリエーションとして、「(の) ではなかった (の) か」とも共起できる。「(の) ではなかっただろうか」を 32 例、「(の) ではなかっただろうか」を 80 例、「(の) ではなかったのだろうか」を 19 例、「(の) ではなかっただでしょうか」を 39 例、「(の) ではなかったのでしょうか」を 12 例収集できた。「(の) ではないか」の形と比較すると、用例数はかなり少ない。タ形の「(の) ではないか」は「だろう」と共起しにくいことが分かる。

(45) ミランダはこめかみを揉み、もっと細かい記憶を拾いあげようとした。そう言えば、あの時期、ジョンは体調を崩していたのではなかっただろうか？

(BCCWJ 出版・書籍 ノーラ・ロバーツ(著)/芹澤恵(訳))

(46) 一人住まいの男のところへ、腹の大きい女性が時折やってくるという光景は異様ではなかっただろうか。 家主にだけでなく、彼女のことは近隣でも話題になっていたのではないか。 (BCCWJ 出版・書籍 梓林太郎(著))

(47) やはりまだ、江戸ならぬ東京に舞い戻ってくるべきではなかっただろうか…。いや、ちがう。 (BCCWJ 図書館・書籍 松井今朝子(著))

(48) 世界大戦当時の日本にとって、アメリカやイギリスは偶然にもまったく「大石」のような存在ではなかったのでしょうか。 (BCCWJ 図書館・書籍 李寧熙(著))

(49) 室井唐さんは大学にくるのを決断するにあたって、周囲の人に反対されたということで躊躇されたのではなかったのでしょうか。

(BCCWJ 出版・書籍 唐十郎(著)/室井 尚(著))

最後に「だろう」と終助詞が共に現れる用例を見る。考えられる形式を調査してみたが、ともに現れる形として、「(の) ではないだろうかな」(3例)、「(の) ではないだろうかね」(1例)、「(の) ではないでしょうか」(1例)、「(の) ではないでしょうかね」(20例)と「(の) ではないのでしょうかね」(4例)という4つの形式のみである。「(の) ではないか」と共起できる助詞の中で、「ね」と「でしょう」の共起が最も多いが、全体から見ると、「だろう」と終助詞が共に現れにくいことが分かる。

(50) そのような有識者からいろいろ御意見を承りながら、そして私ども自身の勉強の中身を加えながらできるだけ早く一つの方向を見出して、そしてまた御相談なり法案の提出なり、そういうふうな方向へ進むのではないだろうかな、このように思いますが、現在のところ、今検討をそのように、年内五回をやるわけでございますけれども、進めている段階でございます。 (BCCWJ 特定目的・国会会議録)

(51) 自動車に投げられる罵声がこっちへ跳ねかえってとばかりが来ても、驚いてはいけない。あらゆる機械は教師と言えるのではないだろうかね。

(BCCWJ 図書館・書籍 レイ・ブラッドベリ(著)/小川高義(訳))

(52) これをはじめて食べたときは、うまくてうまくて、私も若かったし二人前は軽く食べられるかとおもったが、あるじは、「いや、むりではないでしょうか」と、いった。

(BCCWJ 図書館・書籍 池波正太郎(著))

(53) 全編日本語なので、これ海外からDVDを輸入しても視聴に全く問題はないと思いますが、もうそろそろ日本でもDVDリリースという陽の目を見るべき作品ではないでしょうかね。 (BCCWJ 特定目的・ブログ)

(54) 新品に買い換えれば、今は保証期間等が長いので、安心出来るのではないのでしょうかね。 (BCCWJ 特定目的・知恵袋)

以上は実際に使用される「(の) ではないか」のバリエーションについて見た。今回の調査結果により、「(の) ではないか」はバリエーションがたくさんあるが、考えられる形は全て用いられることはないことが分かった。特に、2つ以上の要素が入る場合、終助詞と

共起しにくくなる。次の2.3において、実際に使用される「じゃ」類のバリエーションを整理する。

2.3 「じゃ」類

以上は「では」類について見た。ここから「じゃ」類について見る。「じゃ」類も「では」類と同じように短単位検索を用いる。例えば、「(の) じゃないか」の場合は、語彙素の「だ」、「無い」、「か」に分け、それぞれの品詞と活用形を設定して収集する。その条件を下の表10に示す。

表10 「(の) じゃないか」の検索条件

キー:	語彙素 (だ) > 品詞の小分類が助動詞 > 活用形 (小分類が連用形・融合)
後方共起1:	語彙素 (無い) > 品詞の中分類が形容詞・非自立可能 > 活用形 (小分類が終止形・一般)
後方共起2:	語彙素 (か) > 品詞の中分類が助詞・終助詞
後方共起3:	品詞の大分類が記号/補助記号/空白

こういう短単位検索を用いて、「じゃ」類の用例を20612例収集した。ここから「文末詞の変化」、「タ形との共起」、「丁寧形」、「終助詞との共起」及び「「だろう」との共起」という順で詳しく見ていく。

2.3.1 文末詞の変化

「(の) じゃないか」も「(の) ではないか」と同じように、「終助詞」の「か」で終わるものだけでなく、「の」と「のか」で終わる形も存在する。今回は「(の) じゃないか」を9487例、「(の) じゃないの」⁶を820例、「(の) じゃないのか」を578例収集した。

⁶「(の) ではないか」の場合は短単位検索を用いても、「そうじゃないの。私は自分が信じられないのよ」のような否定を表す用例が出てくるので、今回は時間と労力の関係で、そういう用例を除外するために、「(の) ではないの？」に限定した。無論、こういう限定条件を設定すると、「ほら、何年か前、池袋で事件があったじゃないの。」のような用例が一

(55)いつまでもおなじ本じゃつまらないじゃないか。(BCCWJ 図書館・書籍 長田弘(著))

(56)「あなた、突然あたしを置いてどこかへ行っちゃうんじゃないの?」

(BCCWJ 図書館・書籍 藤川桂介(著))

(57)「真実なら、もう分かっていたのじゃないか。それとも、ほんとうのところは、俺が犯人だということは、たったいま、思い当たったのかね」

(BCCWJ 図書館・書籍 内田康夫(著))

今回の調査で、文末詞が「か」でない用例もあるが、「か」で終わる形式である「(の)じゃないか」のほうがはるかに多いことが分かった。次の2.3.2において、テンスが分化する場合のバリエーションを整理する。

2.3.2 タ形との共起

「(の) じゃないか」も「(の) ではないか」と同じように、非過去と過去がある。今回は「(の) じゃなかったか」を41例、「(の) じゃなかったの」を56例、「(の) じゃなかったのか」を60例収集できた。

(58) その少年の左のこめかみ近くに、傷痕があつたのじゃなかったか。そう、やっぱり傷がある。(BCCWJ 図書館・書籍 金子光晴(著))

(59) —ユキとキララは、いっしょじゃなかったの?サチが、しんぱいそうにききました。(BCCWJ 出版・書籍 ジョアン・ロス(著)/柴田 礼子(訳))

(60) 「家の手入れをするために僕を雇ったんじゃないかったのか?」

「それはそうよ、でも…」(BCCWJ 図書館・書籍 いぬいとみこ(著))

「では」類と同じように、「じゃ」類も「非過去」の用例の方が多い。

2.3.3 丁寧形

「(の) じゃないか」の丁寧な形も「じゃないですか」と「じゃありませんか」の2通りが考えられる。今回は「(の) じゃないですか」3958例、「(の) じゃないのですか」300例を収集した。「(の) じゃないのです」は1例収集できたが、「(の) じゃないのですの」の

部収集できないことになるが、今後「(の) じゃないの」について詳しく研究の必要が出てくる場合、また考慮する。

形は検索してみたところ、一例もなかったため、この形は実際に使われないと言っていいと思われる。「(の) じゃありませんか」は740例を収集した。「(の) じゃありませんの」は9例収集した。

(61) 「なにして、くれるって言う物、もらっとかないと損じゃないですかあ。事務所の経営だって、楽じゃないんですから」 (BCCWJ 図書館・書籍 火浦功(著))

(62) 「彼は、ここで生まれたんじゃないんですか。」 (BCCWJ 出版・雑誌 戸井十月(著))

(63) おいおいこりゃ撲滅とかいうレベルじゃないっすの～

(BCCWJ 特定目的・ブログ)

(64) 「マネージャーの原田も、被害者が安西みち子と知った瞬間、柏崎マリが殺ったのではないかと、思ったんじゃないませんか。」 (BCCWJ 図書館・書籍 西村京太郎(著))

(65) 「あら、生まれたての赤ちゃんは顔がお猿さんのように赤いからじゃありませんの？」

(BCCWJ 図書館・書籍 李寧熙(著))

またテンスの形と丁寧形も複合する形式もある。今回は「(の) じゃなかったですか」を28例、「(の) じゃなかったのですか」を22例、「(の) じゃありませんでしたか」と「(の) じゃありませんのでしたか」の用例はなかった。

(66) 「きょう食堂の前で、お会いしたとき、わたしのそばに、いかつい男がいたの、お気づきじゃなかったですか？」 (BCCWJ 出版・雑誌 佐野洋(著))

(67) 「そうですか。ところで、このごろは査証をするということがなくなりましてな、パスポートを提出しなくてもよくなったのです。ご存じじゃなかったのですか？」

(BCCWJ 出版・書籍 ジュール・ヴェルヌ(著)/江口清(訳))

以上は「じゃ」類の丁寧形のバリエーションを整理した。次の2.3.4で終助詞と共起する「じゃ」類のバリエーションを見る。

2.3.4 終助詞との共起

今回は「(の) じゃないかな」を1946例、「(の) じゃないのかな」を307例、「(の) じゃないかしら」を446例、「(の) じゃないのかしら」を27例、「(の) じゃないかね」を103例、「(の) じゃないのかね」を53例、「(の) じゃないかい」を49例、「(の) じゃないのかい」を61例、「(の) じゃないかよ」を68例、「(の) じゃないのかよ」を15例、「(の) じゃないかのう」を2例、「(の) じゃないのかのう」を2例収集した。その他の形式は収集できなかった。以上の結果をまとめると、次のページの表11になる。

表 11 「(の) じゃないか」と助詞の共起

	な	かしら	ね	かい	よ	のう
(の) じゃないか	1946	446	103	49	68	2
(の) じゃないのか	307	27	53	61	15	2
計	2253	473	156	110	83	4

表 11 で示した順に、用例を一例ずつ挙げる。

(68) 「モリオ? ああ、知ってる。二、三度会っただけだけどね。ちょっと、いや、かなり変人だけど、天才と言っていいんじゃないかな。」

(BCCWJ 図書館・書籍 田中芳樹(著))

(69) 「たぶん、連中は、まだおれたちが給水システムのサボタージュ仕事を仕掛けるとでも考えているんじゃないのかな?」

(BCCWJ 図書館・書籍 ティモシイ・ザーン(著)/野田昌宏(訳))

(70) 「何のこと?」 「お父さま、殺されたんじゃないかしら?」

(BCCWJ 図書館・書籍 山村美紗(著))

(71) 「前に死んだ藤原功のマネをして、泳いでみたんじゃないのかしら?裸で泳いだら、どんな気持かと思って」

(BCCWJ 図書館・書籍 西村京太郎(著))

(72) 「若い男か老人かは、わかったんじゃないかね?」

(BCCWJ 図書館・書籍 西村京太郎(著))

(73) マツの姿を眺めていた蓑島は、由兵衛の方へ向き直り、「ほんとにあの人は友だちかね。これじゃないのかね?」と小指をたててみせた。

(BCCWJ 図書館・書籍 田中雅美(著))

(74) 「きみは釣りが好きなんじゃないかい?ぼくのフライを二つか三つ、もってかないか?」と聞いた。(BCCWJ 図書館・書籍 フランク・ソーヤー(著)/能本 功生(訳))

(75) 「どうせなら、千道が山から帰ってからのすればよかったんじゃないのかい?」

「いいのよ、信子とさんざん話したから」 (BCCWJ 図書館・書籍 青野聰(著))

(76) 「すげえや、この靴ピカピカのゴム底だ」 隣の少年が真次を見上げて囁いた。「やばいじゃねえか。米兵じゃねえのかよ」 (BCCWJ 図書館・書籍 浅田次郎(著))

(77) 「目と目を見合わせることじゃないんかの。外国人は目をそらせると、こいつは自信がないのかとか、悪巧みをしているらしいぞとか、考えるそうな」

(BCCWJ 図書館・書籍 実著者不明)

(78) はっきり物申し取るじゃないのかの～～～！！こちらの方が、真実じゃよっ！！

(BCCWJ 特定目的・ブログ)

以上で各終助詞と「(の) じゃないか」と共起する用例を見たが、終助詞も「(の) じゃないか」の形とのみ共起するのではなく、テンスや丁寧形と一緒に共起することも出来る。今回は検索をかけてみた結果、「(の) じゃないですか」を1例、「(の) じゃないですかね」を239例、「(の) じゃないのですか」を20例、「(の) じゃなかったかな」を79例、「(の) じゃなかったのかな」を13例、「(の) じゃなかったかしら」を22例、「(の) じゃなかったのかしら」を5例、「(の) じゃなかったかね」を5例、「(の) じゃなかったのかね」を5例、「(の) じゃなかったかい」を5例、「(の) じゃなかったのかい」を8例、「(の) じゃなかったのかよ」を3例、「(の) じゃなかったですかね」を6例、「(の) じゃなかったのですか」を1例、収集できた。その他の形式は収集できなかった。終助詞と共起する形をまとめた結果は下の表12になる。

表12 終助詞と共起する「(の) じゃないか」のバリエーション

	な	かしら	ね	かい	よ	のう
(の) じゃなかったか	79	22	5	5	0	0
(の) じゃなかったのか	13	5	5	8	3	0
(の) じゃないですか	1	0	239	4	0	0
(の) じゃないのですか	0	0	20	2	0	0
(の) じゃなかったですか	0	0	6	0	0	0
(の) じゃなかったのですか	0	0	1	0	0	0
計	93	27	276	19	3	0

表11と表12を比べると、「(の) ではないか」と同じ傾向が見られる。単一要素の入っているバリエーション（「(の) じゃないか」）のほうが二つ以上の要素が入っているバリエーション（「(の) じゃなかったか」など）より、終助詞と共起しやすい。なお、終助詞と共起する「(の) じゃないか」以外の用例を表12が示した順に挙げる。

(79) 堀井幸子の場合、一緒にテレビ番組に出たとき、先輩の自分を無視したと
いて、柏崎マリが怒ったんですよ、以来、仲が悪かったんじゃなかったかな。

(BCCWJ 図書館・書籍 西村京太郎(著))

(80) 町の人はおやじに対して、賛否半々じゃなかったのかな。

(BCCWJ 特定目的・ベストセラー 松山千春(著))

(81) それは、日本のマスコミは発達していますから、マスコミは、ないしょだ、オフレコだと言ったって、オフレコはよく書くんですから、それだけに、その辺を考えていただきましてちょうどいい格好になるんじゃないですかな、私はそう思っております。

(BCCWJ 特定目的・国会会議録)

(82) 相手は間の悪そうに目ばたきをして「たしか喜十さんじゃなかったかしら。湯村の篠笹屋の番頭さんじゃなかったかしら」と念を押し「ほうれ今年の六月ころ、君が篠笹屋の露天風呂で僕が目鏡のたまを踏み割った、あの番頭さんの喜十さんだろう」と太った客は云った。

(BCCWJ 出版・書籍 井伏鱒二(著))

(83) 「それは太陽様を絶対的に信じていられるからです。自分は守られていると確信できる強さが、相手をたじろがせたと思うの。前の日に夢を見せたのも、たんなる予知夢じゃなくて、私に対する試練みたいなものじゃなかったのかしら。“泥棒が入るぞ。恐い目に会うぞ。信ずるならば助けてやる”と神様が私をためしたんです」そう話す傍らで光祖が大きく頷く。

(BCCWJ 図書館・書籍 ひろたみを(著))

(84) そのとおりのことが起こったんじゃないかかね？

(BCCWJ 図書館・書籍 マーセデス・ラッキー(著)/山口緑(訳))

(85) 石川のおばあちゃんが亡くなってもそんな気配もないし、うちの母が九十も余っていらっしゃるからということじゃなかったのかかね。

(BCCWJ 出版・書籍 富本定(著)/真下厚(著))

(86) そうするとニューナンブはメインにならないから、映画から入った人間にとってはニューナンブっていうのは今ひとつ、みたいな部分もあるんじゃないですかね。

(BCCWJ 出版・雑誌 実著者不明/栩野 幸知(著))

(87) つかず離れずがいちばんいいんじゃないんですかね。

(BCCWJ 図書館・書籍 野村有紀子(著)/野村沙知代(著))

(88) 「そうだね。大きな窯を焚くたんびに黒い煙が出て、洗濯物は汚れるし、火の始末も心配だって、ご近所からだいぶ苦情が出てたようですよ。そんなことで、よそへ移ってかれたんじゃないんですかね。」

(BCCWJ 図書館・書籍 夏樹静子(著))

(89) 六本木にあったビデオボックスのマッシュルームってつぶれたんですか？リニュー

アルじゃなかったんですかね？

(BCCWJ 特定目的・知恵袋)

- (90) 「はめられたんだ。けど、二部屋しか離れていないところで由香が撮影してるってことがわかったら、顔を合わさないで帰っちゃうのは、何だかコソコソしてるみたいに思えてきたんだよ。コソコソしちゃいけないんだって気になったんだ。由香はいやじゃなかったかい？あんなところでおれと顔を合わせて」

(BCCWJ 図書館・書籍 勝目梓(著))

- (91) 「修ちゃん、これひよっとして、宣子さんへの土産じゃなかったのかい」

(BCCWJ 図書館・書籍 志水辰夫(著))

- (92) 「お客さん、そろそろ電車、動いているんじゃないですかい。午後十一時ですよ。ところでお客さん、どこまでお帰りになられるんで」。

(BCCWJ 特定目的・ブログ)

- (93) 「社長、そろそろ忙しくなってんじゃねえんですか

(BCCWJ 図書館・書籍 北方謙三(著))

- い？」 「なんでって—そもそも、こういうことが聞きたくて俺に近づいたんじゃなかったのかよ」 (BCCWJ 出版・書籍 村山由佳(著))

以上は終助詞と共起する「じゃ」類のバリエーションを整理した。次の2.2.5で「だろう」と共起する「じゃ」類のバリエーションを調べる。

2.3.5 「だろう」との共起

「(の) じゃないか」も「(の) ではないか」と同じように、「だろう」及びその丁寧形である「でしょう」と共起できる。今回の調査で、「(の) じゃないだろうか」を206例、「(の) じゃなかろうか」を158例、「(の) じゃないのだろうか」を7例、「(の) じゃないでしょうか」を1212例、「(の) じゃないのでしょうか」を79例収集した。その用例を以下に示す。

- (95) 「ええ。だって旦那が、あの薬缶の話をしていた大工も、ひよっとすると先の世の中から来た者じゃないだろうか、なんて言っていたものですから」

(BCCWJ 図書館・書籍 半村良(著))

- (96) 何かこのあたりで、落語家としてチャレンジすべきなんじゃなかろうか。

(BCCWJ 図書館・書籍 桂三枝(著))

- (97) けれどつい最近、ふと思ったのです。避けるのは分かるけど、私に悪口を言ったり

罵声をあびせたりする必要は無かったんじゃないのだろうか。

(BCCWJ 特定目的・ブログ)

(98) 監督さんの「ヘアスタイルを維持して」っていう要求にも、「伸ばしたい」って断ったみたいですね。役に没頭するドンゴンさんがそういうことを言うなんて、よほどイヤだったんじゃないでしょうか。

(BCCWJ 特定目的・ブログ)

(99) CMに出ているタレントさんが実はそのCMで紹介される商品を使っていないとかはよくあることじゃないんでしょうか。

(BCCWJ 特定目的・知恵袋)

用例数からみると、「(の) じゃないか」は「でしょう」と共起するケースが多いことが分かった。またその他の二つ以上要素が入るバリエーションとして、「(の) じゃなかっただろうか」を1例、「(の) じゃなかったの

だろうか」を1例、「(の) じゃなかったでしょう

か」を8例、「(の) じゃなかったのでしょうか」を4例収集した。タ形が入ってしまうと、「だろう」と共起しにくくなる。それぞれの用例を以下に示す。

(100) 思考を他に伝達しようとする意志が、そのときしらずしらずのうちに含まれていないじゃなかっただろうか？

(BCCWJ 特定目的・知恵袋)

(101) どんな理由があったのか知る由も無いが、まず旦那様に相談するとか、悩みを打ち明けるって状況じゃなかったんだらうか…

(BCCWJ 図書館・書籍 高木彬(著))

(102) 二十～十五年前にとっても流行ってました。デザイナーズブランドのなかでも1.2番人気じゃなかったでしょう

か。(BCCWJ 図書館・書籍 筒井康隆(著))

(103) 「奥さんが聞きつけたというピストルの音は本当に弾丸をうつ音だったんでしょうか。犯人が、自分のアリバイを作るための偽音じゃなかったんでしょうか？」

(BCCWJ 特定目的・ブログ)

さらに、終助詞の要素が入ると、用例数が少なくなる。用例として、「(の) じゃないだろうか

かな」を5例、「(の) じゃなかろうかな」を12例、「(の) じゃないの

だろうかかな」を1例、「(の) じゃないだろうか

ね」を1例、「(の) じゃなかろうかね」を1例、「(の) じゃないで

しょうかな」を1例、「(の) じゃないで

しょうかね」を66例、「(の) じゃなかった

ろうかね」を1例収集したが、それ以外のバリエーションは収集できなかった。その用例を以下に示す。

(104) ところを見ると、今でもなかなか狭いところに、広げて人道と車道を分けて並木を植えるというのならそれはわかるけれども、ここに並木を植えたら随分と狭く

ってしまうのじゃないだろうか

かなと思った。(BCCWJ 特定目的・国会会議録)

(105) 雇い主は、この金は全然返還請求権がないのですね。全部労働者に行くというのですね。これなんか一つ問題なんじゃなからうかなと私は実は思っているわけです。

(BCCWJ 特定目的・国会会議録)

(106) 来年四月に天皇御在位六十年の祝賀式典が挙行されるわけでごさいます、この祝賀行事に寄せて死刑囚平沢貞通に対する恩赦による救済ができないものだろうか、少なくとも検討してもよい問題じゃないのだろうかかなと考えますので、その点について初めにお尋ねいたします。

(BCCWJ 特定目的・国会会議録)

(107) 「しゃべるのは、母ちゃんみたいにうまくいかないけど、いっそそのほうがいいんじゃないだろうかね。近ごろの子ときたら、小生意気なことがいえりゃ、頭がいいんだと思ひこんでるから。あの小さな子が来てくれて、なんだかこっちまで若返ったような気がするよ」

(BCCWJ 図書館・書籍 L・M・モンゴメリー(著)/掛川恭子(訳))

(108) 「鶏どもがさ。そうじゃなからうか、お姐さん」とタデウスは答えながら、「鐘ひとつ早い時刻から鳴くせつち鶏どもは、糞つたれじゃなからうかね。」

(BCCWJ 出版・書籍 L・ザッヘル・マゾッホ(著)/飯吉光夫(訳))

(109) 私が知っているのはその程度にすぎません。こんなことは、すでに警察の捜査でも出てきているのじゃないでしょうかなあ。

(BCCWJ 図書館・書籍 内田康夫(著))

(110) 話がそれますが、結婚改姓にあこがれる女の子の意識って、たぶん今書いた僕の気分と同じようなものじゃないでしょうかね。

(BCCWJ 図書館・書籍 榊原富士子(著)/貴志友彦(著))

(111) 「こりゃ全く、父さんは忘れちまったな。いや、いや、そんなこたないぞ。そいつは、このきれいな房々の髪の一巻きじゃなかつたらうかね？」と、愛撫の手を娘の髪に掛け。

(BCCWJ 図書館・書籍 チャールズ・ディケンズ(著)/田辺洋子(訳))

2.4 おわりに

第2章において、「(の) ではないか」のバリエーションを非縮約形の「では」類と縮約形の「じゃ」類に分け、「文末詞の変化」、「タ形との共起」、「丁寧形」、「終助詞との共起」及び「「だろう」の共起」という5つの方面から、BCCWJに用いられるバリエーションを整理した。次の第3章において、各バリエーションの使用傾向と使用頻度について見る。

第3章 各バリエーションの使用傾向と使用頻度

3.1 はじめに

「(の) ではないか」のバリエーションの全てが全く同様に使えるというわけではなく、それぞれの使用傾向、使用頻度面において、一定の差が存在する。本章では、各バリエーションのレジスター別の分布を見る。BCCWJ には様々なレジスターが存在しており、その母体数も異なる。そのため、出現数（粗頻度）で比較するには不適切であり、調整頻度にして比較を行う必要が出てくる。粗頻度とは、コーパスから抽出された状態のまま、調整を加えていない頻度情報のことである。粗頻度には、それを抽出する元であるコーパスのサイズの情報などが含まれていないため、サイズの異なる複数のコーパスから抽出された粗頻度を比較することができない。そのため、サイズの違うコーパスから得られた頻度の比較をするには、粗頻度を一定の基準によって調整した値（調整頻度）を使う。基準は一定のものではなく、比較するコーパスのサイズなどを踏まえ決めるが、本研究においては、「100万語あたりの調整頻度（PMW）」を使う。

ここでは、BCCWJ における短単位の場合のレジスター等の語数を下の表 13 に示す。この表は国立国語研究所が公表した『現代日本語書き言葉均衡コーパス』語彙 ver. 1.1 解説に基づいて作成している。

表 13 BCCWJ の短単位の延べ語数

レジスター（略称）	可変長	固定長	統合形式
出版・書籍(PB)	27039539	6363435	28450509
出版・雑誌(PM)	4196696	1157252	4424572
出版・新聞(PN)	877202	930600	1369772
図書館・書籍(LB)	28828228	6685183	30307622
特定目的・白書(OW)	4712324	1041559	4880892
特定目的・教科書(OT)	924939		
特定目的・広報紙(OP)	3750468		
特定目的・ベストセラー(OB)	3737668		
特定目的・Yahoo!知恵袋(OC)	10235490		
特定目的・Yahoo!ブログ(OY)	10125783		
特定目的・韻文(OV)	223181		
特定目的・法律(OL)	1079083		
特定目的・国会会議録(OM)	5102439		
BCCWJ 全体	104612418		

公表された資料によると、BCCWJ 全体の語数は PM～OW は統合形式、OT～OM は可変長で集計しているが、本稿において調整頻度を計算する際に、統一して「可変長」の延べ語数を用いる。

この章において、3.2「文末詞の変化のバリエーション」、3.3「タ形と共起するバリエーション」、3.4「丁寧形のバリエーション」、3.5「終助詞と共起するバリエーション」、3.6「「だろう」と共起するバリエーション」という順で各バリエーションの分布を見て、それぞれの使用傾向と使用頻度を明らかにする。

3.2 文末詞の変化のバリエーション

この節において、非縮約形の「(の) ではないか」、「(の) ではないの」、「(の) ではないのか」と縮約形の「(の) じゃないか」、「(の) じゃないの」、「(の) じゃないのか」という

6つの形式を見る。3.2.1では、「(の)ではないか」、「(の)ではないの」、「(の)ではないのか」の分布を、3.2.2では、「(の)じゃないか」、「(の)じゃないの」、「(の)じゃないのか」の分布を見る。最後の3.2.3では、6つの形式の特徴とそれぞれの相違点を明らかにする。

3.2.1 「(の)ではない (の) か/の」

この節で、「(の)ではないか」、「(の)ではないの」、「(の)ではないのか」という3つの形式の分布を見る。まず「(の)ではないか」のレジスター別調整頻度 (PMW) を下の表14に示す。

表14 「(の)ではないか」レジスター別調整頻度

	出現数	PMW	PMW 中の割合
特定目的・国会会議録	3590	703.6	41.6%
特定目的・ベストセラー	718	192.1	11.4%
図書館・書籍	5195	180.2	10.7%
出版・新聞	139	158.5	9.4%
出版・書籍	3792	140.2	8.3%
出版・雑誌	420	100.1	5.9%
特定目的・ブログ	581	57.4	3.4%
特定目的・知恵袋	530	51.8	3.1%
特定目的・教科書	41	44.3	2.6%
特定目的・韻文	8	35.8	2.1%
特定目的・白書	64	13.6	0.8%
特定目的・広報誌	48	12.8	0.8%
合計	15126	1690.4	100.0%

上の表14から分かるように、「(の)ではないか」は特定目的・国会会議録での使用が目立つ。その次に、特定目的・ベストセラー、図書館・書籍、出版・新聞、出版・書籍の順で並べている。全体的に見ると、「(の)ではないか」は広い範囲で使われていることが分

かる。次に「(の) ではないの」のレジスター別調整頻度を見る。

表 15 「(の) ではないの」レジスター別調整頻度

	出現数	PMW	PMW 中の割合
特定目的・ブログ	3	0.3	40.4%
特定目的・知恵袋	3	0.3	40.0%
出版・書籍	2	0.1	10.1%
図書館・書籍	2	0.1	9.5%
合計	10	0.7	100.0%

今回は文末に使用される「(の) ではないの」の用例に限定し、収集する際に、「品詞>大分類>補助記号」という条件を設定した。それでも、(112) のような否定を表す用例がある。

(112) 「リード…私はあなたがボスだから拒んだわけではないの。拒めば、私たちが純粋に上司と部下の関係でいられると思ったからなのよ」

(BCCWJ 出版・書籍 デイ・ラクレア(著)/真咲理央(訳))

(112) のような用例を除外すると、「(の) ではないの」の用例は 10 例となり、文末に使用する頻度が非常に低いことが分かった。使用されるときも、80%以上が特定目的・ブログと特定目的・知恵袋のような話し言葉を書き言葉にする媒体になり、使用範囲が狭い。次に「(の) ではないのか」を見る

表 16 「(の) ではないのか」レジスター別調整頻度

	出現数	PMW	PMW 中の割合
特定目的・国会会議録	80	15.7	29.8%
特定目的・ベストセラー	36	9.6	18.3%
図書館・書籍	231	8.0	15.2%
出版・書籍	182	6.7	12.8%
出版・雑誌	21	5.0	9.5%
出版・新聞	3	3.4	6.5%
特定目的・ブログ	23	2.3	4.3%
特定目的・知恵袋	15	1.5	2.8%
特定目的・白書	2	0.4	0.8%
合計	593	52.6	100.0%

上の表 16 から分かるように、「(の) ではないのか」もあまり使用されないが、「(の) ではないの」よりは使用率が高い。そして、特定目的・国会会議録で最も多く使われるが、「(の) ではないか」のように割合が高くない。最後に「(の) ではないか」、「(の) ではないの」、「(の) ではないのか」という 3 形式のレジスター別調整頻度を比較する表を次のページに示す。

表 17 3形式のPMW比較表

(「(の) ではないか」、「(の) ではないの」、「(の) ではないのか」)

	(の) ではないか	(の) ではないの	(の) ではないのか
特定目的・国会会議録	703.6	0	15.7
特定目的・ベストセラー	192.1	0	9.6
図書館・書籍	180.2	0.1	8
出版・新聞	158.5	0	3.4
出版・書籍	140.2	0.1	6.7
出版・雑誌	100.1	0	5
特定目的・ブログ	57.4	0.3	2.3
特定目的・知恵袋	51.8	0.3	1.5
特定目的・教科書	44.3	0	0
特定目的・韻文	35.8	0	0
特定目的・白書	13.6	0	0.4
特定目的・広報誌	12.8	0	0
合計	1690.4	0.7	52.6

上の表 17 から分かるように、3形式の中で最も多く使用されるのも、使用範囲が最も広いのも「(の) ではないか」である。そして、レジスターでの調整頻度としての使用数をみると、出版・新聞のところでは少し違うが、「(の) ではないか」と「(の) ではないのか」が同じような使用傾向が見られる。

以上、「(の) ではないか」、「(の) ではないの」、「(の) ではないのか」について見たが、次の 3.2.2 で「(の) じゃないか」、「(の) じゃないの」、「(の) じゃないのか」について見る。

3.2.2 「(の) じゃない (の) か/の」

この節で、「(の) じゃないか」、「(の) じゃないの」、「(の) じゃないのか」という3つの形式の分布を見る。まず「(の) じゃないか」のレジスター別調整頻度 (PMW) を表 18 に示す。

表 18 「(の) じゃないか」 レジスター別調整頻度

	出現数	PMW	PMW 中の割合
特定目的・国会会議録	2017	395.3	39.9%
特定目的・ベストセラー	646	172.8	17.5%
図書館・書籍	3289	114.1	11.5%
出版・書籍	2037	75.3	7.6%
出版・雑誌	290	69.1	7.0%
特定目的・ブログ	689	68.0	6.9%
特定目的・知恵袋	478	46.7	4.7%
出版・新聞	24	27.4	2.8%
特定目的・韻文	3	13.4	1.4%
特定目的・教科書	5	5.4	0.5%
特定目的・広報誌	9	2.4	0.2%
合計	9487	990.0	100.0%

上の表 18 から分かるように、「(の) じゃないか」は特定目的・国会会議録での使用が目立つ。その次に、特定目的・ベストセラー、図書館・書籍、出版・書籍、出版・雑誌の順で並べている。全体的に見ると、「(の) じゃないか」は様々なレジスターで使われていることが分かる。次に「(の) じゃないの」レジスター別調整頻度を見る。

表 19 「(の) じゃないの」レジスター別調整頻度

	出現数	PMW	PMW 中の割合
特定目的・知恵袋	304	29.7	43.5%
特定目的・ブログ	136	13.4	19.7%
図書館・書籍	178	6.2	9.1%
出版・雑誌	25	6.0	8.7%
特定目的・ベストセラー	22	5.9	8.6%
出版・書籍	153	5.7	8.3%
出版・新聞	1	1.1	1.7%
特定目的・広報誌	1	0.3	0.4%
合計	820	68.2	100.0%

「(の) ではないの」と同じような条件を設定して検索してみたところ、「(の) じゃないか」を 2367 例収集した。今回は時間と労力の関係で、人工的に否定を表す用例を除外するのができないため、「(の) じゃないの？」の用例に限定した結果、820 例となった。この 820 例の使用傾向をみると、特定目的・知恵袋での使用が目立つが、特定目的・ブログでの使用を入れると、全体の 6 割以上を占める。そのため、「(の) じゃないの」は書き言葉より話し言葉的な存在だと言える。次に、「(の) じゃないのか」について見る。「(の) じゃないのか」レジスター別の調整頻度表は次のページになる。

表 20 「(の) じゃないのか」レジスター別調整頻度

	出現数	PMW	PMW 中の割合
特定目的・ベストセラー	35	9.4	20.9%
特定目的・国会会議録	43	8.4	18.8%
図書館・書籍	236	8.2	18.3%
出版・書籍	159	5.9	13.1%
特定目的・知恵袋	47	4.6	10.3%
特定目的・ブログ	46	4.5	10.2%
出版・雑誌	11	2.6	5.9%
出版・新聞	1	1.1	2.5%
合計	578	44.8	100.0%

上の表 20 から分かるように、「(の) じゃないのか」はあまり使用されない。また、いずれかのレジスターでの使用が目立つこともない。最後に「(の) じゃないか」、「(の) じゃないの」、「(の) ではないのか」という 3 形式のレジスター別調整頻度を比較する表を次のページに示す。

表 21 3形式のPMW 比較表

(「(の) じゃないか」、「(の) じゃないの」、「(の) じゃないのか」)

	(の) じゃないか	(の) じゃないの	(の) じゃないのか
特定目的・国会会議録	395.3	0	8.4
特定目的・ベストセラ0	172.8	5.9	9.4
図書館・書籍	114.1	6.2	8.2
出版・書籍	75.3	5.7	5.9
出版・雑誌	69.1	6	2.6
特定目的・ブログ	68	13.4	4.5
特定目的・知恵袋	46.7	29.7	4.6
出版・新聞	27.4	1.1	1.1
特定目的・韻文	13.4	0	0
特定目的・教科書	5.4	0	0
特定目的・広報誌	2.4	0.3	0
合計	990	68.2	44.8

上の表 21 から分かるように、3形式の中で最も多く使用されるのも、使用範囲が最も広いのも「(の) じゃなか」である。そして、今回は「(の) じゃないの？」に限定しているが、「(の) じゃないの」の使用例が計 2367 であり、その全てが否定疑問文の用例だとしても、その使用頻度は「(の) じゃないか」を超えることはない。

以上、「(の) じゃないか」、「(の) じゃないの」、「(の) じゃないのか」の3つの形式について見た。次の 3.2.3 で6つの形式の特徴及びそれぞれの相違点を見る。

3.2.3 まとめ

以上の 3.2.1 と 3.2.2 において、非縮約形の「(の) ではないか」、「(の) ではないの」、「(の) ではないのか」と縮約形の「(の) じゃないか」、「(の) じゃないの」、「(の) じゃないのか」の6つの形式の各レジスターにおける分布を見た。以下に6つの形式の各レジスターにおける頻度の比較表を示す。

表 22 6形式のPMW比較表

「(の) ではないか」、「(の) ではないの」、「(の) ではないのか」

「(の) じゃないか」、「(の) じゃないの」、「(の) じゃないのか」

	(の) ではないか	(の) じゃないか	(の) じゃないの	(の) ではないのか	(の) じゃないのか	(の) ではないの
OM	703.6	395.3	0	15.7	8.4	0
OB	192.1	172.8	5.9	9.6	9.4	0
LB	180.2	114.1	6.2	8	8.2	0.1
PN	158.5	27.4	1.1	3.4	1.1	0
PB	140.2	75.3	5.7	6.7	5.9	0.1
PM	100.1	69.1	6	5	2.6	0
OY	57.4	68	13.4	2.3	4.5	0.3
OC	51.8	46.7	29.7	1.5	4.6	0.3
OT	44.3	5.4	0	0	0	0
OV	35.8	13.4	0	0	0	0
OW	13.6	0	0	0.4	0	0
OP	12.8	2.4	0.3	0	0	0
計	1690.4	990	68.2	52.6	44.8	0.7

以上の3.2.1と3.2.2及び上の表22に基づき、それぞれの特徴を以下にまとめる。

- ① 「(の) ではないか」は最も広い範囲で使われ、使用頻度も最も高い。特に特定目的・国会会議録での使用が目立つ。
- ② 「(の) じゃないか」は2番目に広い範囲で使われ、使用頻度も2番目に高い。「(の) ではないか」と同じように特定目的・国会会議録での使用が目立つ。
- ③ 「(の) じゃないの」は「(の) ではないか」と「(の) じゃないか」に比べ、使用範囲が狭く、使用頻度も大幅に下がった。そして、その全体の6割以上が特定目的・知恵袋と特定目的・ブログで使用されるため、書き言葉より話し言葉的な存在だと言える。
- ④ 「(の) ではないのか」は更に使用されなくなるが、特定目的・国会会議録での使用が目立つ。

⑤「(の) じゃないのか」はあまり使用されない。また、いずれかのレジスターでの使用が目立つこともない。

⑥「(の) ではないの」はほとんど使用されないが、使用された用例は80%以上が特定目的・ブログと特定目的・知恵袋のような話し言葉を書き言葉にする媒体である。この点は「(の) じゃないの」と類似している。

以上の3.2で文末詞の変化のバリエーションについて見た。次の3.3において、タ形と共起するバリエーションを見る。

3.3 タ形と共起するバリエーション

タ形と共起するバリエーションとして、非縮約形の「(の) ではなかったか」、「(の) ではなかったの」、「(の) ではなかったのか」と縮約形の「(の) じゃなかったか」、「(の) じゃなかったの」及び「(の) じゃなかったのか」という6つがある。この節において、この6つの形式の各レジスターにおける分布を見ることで、各形式の使用傾向と使用頻度を明らかにする。

3.3.1 「(の) ではなかった (の) か/の」

この節において、非縮約形の「(の) ではなかったか」、「(の) ではなかったの」、「(の) ではなかったのか」の分布を見る。まず「(の) ではなかったか」のレジスター別調整頻度を次の表23に示す。

表 23 「(の) ではなかったか」 レジスター別調整頻度表

ではなかったか	出現数	PMW	PMW 中の割合
図書館・書籍	114	4.0	26.1%
特定目的・ベストセラー	11	2.9	19.4%
出版・書籍	76	2.6	17.4%
出版・雑誌	9	2.1	14.1%
特定目的・国会会議録	8	1.6	10.3%
出版・新聞	1	1.1	7.5%
特定目的・ブログ	7	0.7	4.6%
特定目的・知恵袋	1	0.1	0.6%
合計	227	15.2	100.0%

「(の) ではなかったか」は使用頻度があまり高くない。図書館・書籍での使用が最も多いが、目立つほどの特徴ではない。次に、「(の) ではなかったの」のレジスター別調整頻度を見る。

表 24 「(の) ではなかったの」 レジスター別調整頻度表

	出現数	PMW	PMW 中の割合
図書館・書籍	4	0.14	31.1%
出版・書籍	3	0.11	24.9%
特定目的・ブログ	1	0.10	22.1%
特定目的・知恵袋	1	0.10	21.9%
合計	9	0.5	100.0%

表 24 から分かるように、「(の) ではなかったの」は使用頻度が非常に低い。そして、使用範囲も狭い、使用されるいずれのレジスターにおいてほぼ均等に分布していることも分かる。次に、「(の) ではなかったのか」について見る。

表 25 「(の) ではなかったのか」レジスター別調整頻度表

	出現数	PMW	PMW 中の割合
特定目的・ベストセラー	6	1.6	24.8%
特定目的・国会会議録	7	1.4	21.2%
出版・新聞	1	1.1	17.6%
出版・書籍	25	0.9	14.3%
図書館・書籍	20	0.7	10.7%
特定目的・ブログ	4	0.4	6.1%
出版・雑誌	1	0.2	3.7%
特定目的・知恵袋	1	0.1	1.5%
合計	65	6.5	100.0%

「(の) ではなかったのか」もあまり使用されず、特にいずれかのレジスターにおける使用が目立つこともない。

以上の内容をまとめると、非縮約形の「(の) ではなかった (の) か/の」はあまり使用されることもなく、特に目立つ特徴も見られないことが分かった。次の 2.2.2 において、縮約形の「(の) じゃなかったか」、「(の) じゃなかったの」及び「(の) じゃなかったのか」について見る。

3.3.2 「(の) じゃなかった (の) か/の」

縮約形の「(の) じゃなかったか」、「(の) じゃなかったの」及び「(の) じゃなかったのか」という 3 形式が各レジスターにおける分布について見る。まず「(の) じゃなかったか」のレジスター別調整頻度を次の表 26 に示す。

表 26 「(の) じゃなかったか」 レジスター別調整頻度表

	出現数	PMW	PMW 中の割合
特定目的・国会会議録	8	8.0	45.9%
図書館・書籍	22	3.9	22.3%
特定目的・ブログ	3	1.5	8.7%
特定目的・ベストセラー	1	1.4	7.8%
出版・雑誌	1	1.2	7.0%
出版・書籍	5	0.9	5.4%
特定目的・知恵袋	1	0.5	2.9%
合計	41	17.4	100.0%

「(の) じゃなかったか」も使用頻度が低いですが、特定目的・国会会議録での使用が目立つ。次に「(の) じゃなかったの」を見る。

表 27 「(の) じゃなかったの」 レジスター別調整頻度表

	出現数	PMW	PMW 中の割合
出版・書籍	24	0.9	29.9%
図書館・書籍	22	0.8	25.7%
特定目的・ベストセラー	2	0.5	18.0%
特定目的・ブログ	4	0.4	13.3%
特定目的・知恵袋	4	0.4	13.2%
合計	56	3.0	100.0%

「(の) じゃなかったの」は使用頻度が低い。出版・書籍と図書館・書籍での使用を合わせると、5割以上になるため、書籍類での使用が目立つということが言える。次に「(の) じゃなかったのか」を見る。

表 28 「(の) じゃなかったのか」レジスター別調整頻度表

	出現数	PMW	PMW 中の割合
出版・新聞	1	1.1	24.3%
特定目的・ベストセラー	4	1.1	22.8%
図書館・書籍	29	1.0	21.5%
出版・書籍	20	0.7	15.8%
特定目的・ブログ	4	0.4	8.4%
出版・雑誌	1	0.2	5.1%
特定目的・知恵袋	1	0.1	2.1%
合計	60	4.7	100.0%

「(の) じゃなかったのか」もあまり使用されず、いずれかのレジスターにおける使用が目立つこともない。

この節の最初にタ形と共起するバリエーションとして、非縮約形の「(の) ではなかったか」、「(の) ではなかったの」、「(の) ではなかったのか」と縮約形の「(の) じゃなかったか」、「(の) じゃなかったの」及び「(の) じゃなかったのか」という6つがあると述べた。この6つの調整頻度を合わせても47.2しかない。そして、「(の) じゃなかったか」の特定目的・国会会議録での使用、「(の) じゃなかったの」の書籍類での使用が目立つこと以外、その他の4つの形式には特に目立つ特徴が見られない。次の3.4で丁寧形のバリエーションの分布を見る。

3.4 「丁寧形のバリエーション」

この節では、まず「(の) ではないですか」、「(の) ではありませんか」、「(の) じゃないですか」、「(の) じゃありませんか」という4つの形式のレジスター別分布を見る。その次に、4つの形式のレジスター別の調整頻度の比較を行い、それぞれの特徴を明らかにする。まず「(の) ではないですか」を見る。

表 29 「(の) ではないですか」 レジスター別調整頻度

	出現数	PMW	PMW 中の割合
特定目的・知恵袋	316	30.9	52.9%
特定目的・国会会議録	36	7.1	12.1%
出版・雑誌	21	5.0	8.6%
特定目的・ブログ	43	4.2	7.3%
出版・書籍	96	3.6	6.1%
図書館・書籍	69	2.4	4.1%
特定目的・ベストセラー	8	2.1	3.7%
出版・新聞	1	1.1	2.0%
特定目的・教科書	1	1.1	1.9%
特定目的・白書	4	0.8	1.5%
合計	595	58.3	100.0%

「(の) ではないですか」は特定目的・知恵袋における使用が目立つ。同じ書き言葉であるとしても、知恵袋は疑問に思っていることを質問したり、その質問に回答したりする媒体であり、書き込む際に常に誰かがいることを念頭に置いているはずなので、「(の) ではないですか」のような形がよく使用されることになっているのであろう。次に「(の) ありませんか」について見る。

表 30 「(の) ではありませんか」 レジスター別調整頻度

レジスター	出現数	PMW	PMW 中の割合
特定目的・国会会議録	79	15.5	25.4%
特定目的・ベストセラー	44	11.8	19.3%
図書館・書籍	250	8.7	14.2%
特定目的・知恵袋	76	7.4	12.2%
出版・書籍	176	6.5	10.7%
出版・雑誌	20	4.8	7.8%
特定目的・ブログ	34	3.4	5.5%
出版・新聞	1	1.1	1.9%
特定目的・広報誌	4	1.1	1.7%
特定目的・白書	4	0.8	1.4%
合計	688	61.0	100.0%

「(の) ではありませんか」はいずれかのレジスターにおける使用が目立つことなく、バランスよく分布しているが、全体的に見ると、同じ丁寧形である「(の) ではないですか」とほぼ同じ使用頻度で使われる。次に、「(の) じゃないですか」を見る。

表 31 「(の) じゃないですか」 レジスター別調整頻度

	出現数	PMW	PMW 中の割合
特定目的・ブログ	365	1039.2	39.9%
特定目的・知恵袋	1589	792.1	30.4%
特定目的・ベストセラー	131	354.9	13.6%
出版・新聞	6	184.9	7.1%
特定目的・国会会議録	482	87.4	3.4%
出版・書籍	483	75.0	2.9%
出版・雑誌	202	48.1	1.8%
図書館・書籍	699	21.3	0.8%
特定目的・教科書	1	4.0	0.2%
合計	3958	2606.9	100.0%

「(の) じゃないですか」は非常に使用頻度が高く、そして、特定目的・ブログと特定目的・知恵袋での使用がほぼ7割となる。次に「(の) じゃありませんか」を見る。

表 32 「(の) じゃありませんか」 レジスター別調整頻度

	出現数	PMW	PMW 中の割合
特定目的・国会会議録	99	19.4	28.7%
特定目的・ベストセラー	71	19.0	28.1%
図書館・書籍	361	12.5	18.5%
出版・書籍	124	4.6	6.8%
特定目的・知恵袋	36	3.5	5.2%
特定目的・ブログ	34	3.4	5.0%
出版・雑誌	13	3.1	4.6%
出版・新聞	1	1.1	1.7%
特定目的・教科書	1	1.1	1.6%
合計	740	67.7	100.0%

「(の) じゃありませんか」は「(の) ではありませんか」とほぼ同じ頻度で使われるが、使用傾向を見ると、特にいずれかのレジスターにおける使用が目立つことがない。

以上、形式別にそれぞれのレジスター別の調整頻度を見たが、次に4つの形式のレジスター別調整頻度の比較を行う。

表 33 4つの形式のPMW 比較表

「(の) ではないですか」、「(の) ではありませんか」、
「(の) じゃないですか」、「(の) じゃありませんか」

	(の) じゃ ないですか	(の) じゃ ありませんか	(の) では ありませんか	(の) では ないですか
OC	792.1	3.5	7.4	30.9
OM	87.4	19.4	15.5	7.1
PM	48.1	3.1	4.8	5
OY	1039.2	3.4	3.4	4.2
PB	75	4.6	6.5	3.6
LB	21.3	12.5	8.7	2.4
OB	354.9	19	11.8	2.1
PN	184.9	1.1	1.1	1.1
OT	4	1.1	0	1.1
OW	0	0	0.8	0.8
OP	0	0	1.1	0
計	2606.9	67.7	61	58.3

表 33 から見ると、4つの形式の中で、「(の) じゃないですか」の使用頻度が最も高い。その他の3つの形式はほぼ同じ使用頻度で使われる。使用範囲においては、4つの形式とも大差がない。それぞれの特徴をまとめると、以下になる。

- ① 「(の) じゃないですか」は特定目的・ブログと特定目的・知恵袋での使用が目立ち、ほぼ7割を占める。
- ② 「(の) じゃありませんか」と「(の) ではありませんか」はほぼ同じ使用頻度で使われ、

両形式とも特徴と言えるような使用傾向が見られず、いずれかのレジスターにおける使用が目立つこともない。

- ③「(の) ではないですか」は特定目的・ブログでの使用は多くないが、「(の) じゃないですか」と同じように、特定目的・知恵袋における使用が目立つ。ただし、「(の) じゃないですか」の使用頻度が「(の) ではないですか」より遥かに使用頻度が高い。それは話し言葉において、「では」より縮約形の「じゃ」のほうが使われやすいことが考えられる。以上の3.4において、丁寧形のバリエーションの分布を見てきた、次の3.5で終助詞と共起するバリエーションについて見る。

3.5 終助詞と共起するバリエーション

BCCWJの調査により、「(の) ではないか」⁷と共起できる終助詞として、「な」、「かしら」、「ね」、「かい」、「よ」と「のう」の6つが挙げられる。この節において、まず3.5.1において、それぞれの終助詞と共起できるバリエーションを整理する。次に、3.5.2において、共起の多いバリエーションに限定し、それぞれの使用傾向と使用頻度について分析する。

3.5.1 終助詞と共起するバリエーション

まず終助詞と共起する「では」類のバリエーション整理し、次の表34⁸に示す。

⁷ ここでいう「(の) ではないか」は全てのバリエーションの代表形式である。

⁸ ここで見るのは「では」類のバリエーションと終助詞と共起する用例数であるため、調整頻度を出す必要がない。次の表35も同じ粗頻度としての使用数を出す。

表 34 終助詞と共起する「では」類のバリエーション

	な	ね	かしら	かい	のう	よ
(の) ではないか	365	25	63	6	1	1
(の) ではないのか	85	13	9	0	2	0
(の) ではなかったか	10	0	1	0	0	0
(の) ではなかったのか	7	4	2	0	0	0
(の) ではないですか	3	19	0	0	0	0
(の) ではないのですか	0	7	0	0	0	0
(の) ではなかったですか	0	2	0	0	0	0
(の) ではなかったのですか	0	0	0	0	0	0
(の) ではないだろうか	3	1	0	0	0	0
(の) ではないのだろうか	0	0	0	0	0	0
(の) ではなかろうか	17	0	0	0	0	0
(の) ではなかっただろうか	0	0	0	0	0	0
(の) ではなかったのだろうか	0	0	0	0	0	0
(の) ではなかったろうか	0	0	0	0	0	0
(の) ではないでしょうか	1	20	0	0	0	0
(の) ではないのでしょうか	0	4	9	0	0	0
(の) ではなかったでしょうか	0	0	0	0	0	0
(の) ではなかったのでしょうか	0	0	0	0	0	0
計	491	95	84	6	3	1
総計	680					

表 34 を見ると、「では」類のバリエーションと共起する終助詞が数の多い順から、「な」、「ね」、「かしら」、「かい」、「のう」、「よ」のように並べている。次に終助詞と共起する「じゃ」類のバリエーションを整理する。

表 35 終助詞と共起する「じゃ」類のバリエーション

	な	かしら	ね	かい	よ	のう
(の) じゃないか	1946	446	103	49	68	2
(の) じゃないのか	307	27	53	61	15	2
(の) じゃなかったか	79	21	5	5	0	0
(の) じゃなかったのか	13	5	5	8	3	0
(の) じゃないですか	1	0	239	4	0	0
(の) じゃないのですか	0	0	20	2	0	0
(の) じゃなかったですか	0	6	0	0	0	0
(の) じゃなかったのですか	0	0	1	0	0	0
(の) じゃないだろうか	5	0	1	0	0	0
(の) じゃないのだろうか	1	0	0	0	0	0
(の) じゃなかろうか	12	0	1	0	0	0
(の) じゃなかっただろうか	0	0	0	0	0	0
(の) じゃなかったのだろうか	0	0	0	0	0	0
(の) じゃなかったろうか	0	0	1	0	0	0
(の) じゃないでしょうか	1	0	66	0	0	0
(の) じゃないのでしょうか	0	0	0	0	0	0
(の) じゃなかったでしょうか	0	0	0	0	0	0
(の) じゃなかったのでしょうか	0	0	0	0	0	0
計	2365	505	495	129	86	4
総計	3584					

上の表 35 を見ると、「じゃ」類のバリエーションと共起する終助詞が数の多い順から、「な」、「かしら」、「ね」、「かい」、「よ」、「のう」のように並べている。「かしら」と「ね」のところ、「では」類と「じゃ」類の間に順番の前後が生じている。また、全体の使用数、「では」類の 680 例、と「じゃ」類の 3584 例を見ると、終助詞と共起しやすいのが「じゃ」類のバリエーションであることが分かる。

次に、3.5.2 において、終助詞と共起の多いバリエーションに限定し、それぞれの使用

傾向と使用頻度について分析する。

3.5.2 終助詞と共起するパリエーションの分布

この節では、各終助詞と共起する「(の) ではないか」及び「(の) じゃないか」のレジスター調整頻度をみることにより、どの形式の使用頻度が高いかを明らかにする。

表 36 終助詞と共起する「(の) ではないか」、「(の) じゃないか」の調整頻度

	な	かしら	ね	かい	よ	のう
(の) じゃないか	192.7	32.4	8.2	7.8	5.0	0.2
(の) ではないか	53.5	4.7	2.2	0.5	0.0	0.0

表 36 から見ると、使用頻度の高い順に、「(の) じゃないかな」、「(の) ではないかな」、「(の) じゃないかしら」、「(の) じゃないかね」と「(の) じゃないかい」のレジスター別の分布を見る。まず、「(の) じゃないかな」のレジスター別の調整頻度を見る。

表 37 「(の) じゃないかな」レジスター別の調整頻度

	出現数	PMW	PMW 中の割合
特定目的・知恵袋	587	57.3	29.8%
特定目的・国会会議録	152	29.8	15.5%
特定目的・ブログ	280	27.7	14.3%
出版・雑誌	103	24.5	12.7%
特定目的・ベストセラー	66	17.7	9.2%
図書館・書籍	442	15.3	8.0%
出版・書籍	304	11.2	5.8%
出版・新聞	4	4.6	2.4%
特定目的・教科書	3	3.2	1.7%
特定目的・広報誌	5	1.3	0.7%
合計	1946	192.7	100.0%

「(の) じゃないかな」は特定目的・知恵袋での使用頻度が最も高いが、次に、特定目的・国会会議録、特定目的・ブログ及び出版・雑誌に比較的均等に使用されている。次に、「(の) ではないかな」について見る。

表 38 「(の) ではないかな」レジスター別の調整頻度

	出現数	PMW	PMW 中の割合
特定目的・国会会議録	192	37.6	70.4%
特定目的・知恵袋	53	5.2	9.7%
特定目的・ブログ	31	3.1	5.7%
出版・雑誌	9	2.1	4.0%
図書館・書籍	50	1.7	3.2%
出版・新聞	1	1.1	2.1%
特定目的・教科書	1	1.1	2.0%
出版・書籍	26	1.0	1.8%
特定目的・ベストセラー	2	0.5	1.0%
合計	365	53.5	100.0%

「(の) ではないかな」は特定目的・国会会議録での使用が7割もあり、主に話者自身の推測を表す。例えば、(113)の用例は、話者が自分の推測を述べ、「(の) ではないかな」という形で自分の考えを婉曲的に表している。

(113) だからぼくは、学習院のこの前の教授が具体的な話はされなかったけれども、恐らく私はこういうふうな点のいろいろのものがその専門家の先生方にも疑問になっているのではないかなと思うんですが、私も採取権は三十年間、探査権は八年間、だったら合計三十八年間でも可能であったものが、必要に応じて五年ずつ延長申請をすれば可能であるというふうな理由づけの中で五十年協定という形になる。

(BCCWJ 特定目的・国会会議録)

「(の) じゃないかな」も15.5%が特定目的・国会会議録で使用されている。その用例も上の(113)のように、話者自身の考えを婉曲的に述べる用例が多い。

(114) それからなお、仏教とキリスト教、神道との色分け、私の方の調べですと行刑施

設ではお答えのとおりなのですが、少年院では神道とキリスト教とは逆の立場じゃないかなというふうに思います。

(BCCWJ 特定目的・国会会議録)

次に、「(の) じゃないかしら」のレジスター別の調整頻度を見る。

表 39 「(の) じゃないかしら」レジスター別の調整頻度

	出現数	PMW	PMW 中の割合
特定目的・ベストセラー	37	9.9	30.5%
図書館・書籍	222	7.7	23.8%
出版・書籍	129	4.8	14.7%
出版・雑誌	17	4.1	12.5%
特定目的・教科書	2	2.2	6.7%
特定目的・知恵袋	21	2.1	6.3%
特定目的・ブログ	18	1.8	5.5%
合計	446	32.4	100.0%

「(の) じゃないかしら」は特定目的・ベストセラー、図書館・書籍、出版・書籍での調整頻度を合わせると、約7割になるため、書籍類での使用頻度が高いことが言える。次に「(の) じゃないかね」のレジスター別の調整頻度を見る。

表 40 「(の) じゃないかね」レジスター別の調整頻度

	出現数	PMW	PMW 中の割合
特定目的・ベストセラー	15	4.0	48.7%
図書館・書籍	50	1.7	21.0%
出版・書籍	27	1.0	12.1%
出版・雑誌	3	0.7	8.7%
特定目的・ブログ	4	0.4	4.8%
特定目的・知恵袋	4	0.4	4.7%
合計	103	8.2	100.0%

「(の) じゃないかね」は約8割が書籍類で使用されるが、特別特定目的・ベストセラーでの使用が目立つ。最後に「(の) じゃないかい」のレジスター別の調整頻度を見る。

表 41 「(の) じゃないかい」レジスター別の調整頻度

	出現数	PMW	PMW 中の割合
特定目的・ベストセラー	10	2.7	34.3%
図書館・書籍	54	1.9	24.0%
特定目的・ブログ	13	1.3	16.5%
特定目的・知恵袋	9	0.9	11.3%
出版・書籍	23	0.9	10.9%
出版・雑誌	1	0.2	3.1%
合計	110	7.8	100.0%

「(の) じゃないかい」も「(の) ではないかしら」と「(の) ではないかね」と同じように、特定目的・ベストセラーでの使用頻度が最も高く、主に書籍類で使われる。

以上 3.5 において、終助詞と共起するバリエーションの分布について見た。一番多く使用されるのが「(の) じゃないかな」であり、2番目が「(の) ではないかな」である。終助詞の中で、「な」が一番「(の) ではないか」と共起しやすいことが分かった。そして、「な」と共起する用例は特定目的・国会会議録での使用が多いことも分かった。次の 3.6 において、「だろう」と共起するバリエーションのレジスター別の分布を見る。

3.6 「だろう」と共起するバリエーション

この節において、「だろう」と共起するバリエーションのレジスター別の分布を見て、それぞれの使用頻度と使用傾向を明らかにする。この節では、「(の) ではないだろうか」、「(の) ではないでしょうか」、「(の) じゃないだろうか」と「(の) じゃないでしょうか」の4つのバリエーションを見る。

まず「(の) ではないだろうか」の各レジスターにおける調整頻度を表 42 に示す。

表 42 「(の) ではないだろうか」レジスター別調整頻度

	出現数	PMW	PMW 中の割合
特定目的・国会会議録	182	36	19.0%
図書館・書籍	904	31	16.7%
出版・書籍	820	30	16.2%
特定目的・ベストセラー	80	21	11.4%
出版・雑誌	74	18	9.4%
出版・新聞	15	17	9.1%
特定目的・教科書	14	15	8.1%
特定目的・ブログ	107	11	5.6%
特定目的・韻文	1	4	2.4%
特定目的・白書	10	2	1.1%
特定目的・知恵袋	9	0.9	0.5%
特定目的・広報誌	3	0.8	0.4%
合計	2219	187.5	100.0%

「(の) ではないだろうか」は全体的に見ると、使用頻度は低くないが、いずれかのレジスターにおける使用が目立つことなく、比較的均等に分布している。

次に「(の) ではないでしょうか」の各レジスターにおける調整頻度を表 43 に示す。

表 43 「(の) ではないでしょうか」レジスター別調整頻度

	出現数	PMW	PMW 中の割合
特定目的・知恵袋	1908	186.4	46.9%
特定目的・ブログ	331	32.7	8.2%
特定目的・ベストセラー	110	29.4	7.4%
出版・書籍	770	28.5	7.2%
出版・雑誌	116	27.6	7.0%
特定目的・広報誌	103	27.5	6.9%
図書館・書籍	750	26.0	6.5%
特定目的・国会会議録	97	19.0	4.8%
出版・新聞	16	18.2	4.6%
特定目的・教科書	2	2.2	0.5%
合計	4203	397.5	100.0%

まず、使用頻度から見ると、「(の) ではないでしょうか」は「(の) ではないだろうか」より2倍も多く使われている。そして、特定目的・知恵袋における使用が非常に目立つ。これは「(の) ではないですか」と同じような傾向性が見られるが、使用頻度から見ると、「(の) ではないでしょうか」は「(の) ではないですか」より多く使用される。

次に「(の) じゃないだろうか」の各レジスターにおける調整頻度を表 44 に示す。

表 44 「(の) じゃないだろうか」レジスター別調整頻度

	出現数	PMW	PMW 中の割合
特定目的・国会会議録	83	16.3	61.7%
特定目的・ベストセラー	14	3.7	14.2%
図書館・書籍	56	1.9	7.4%
出版・雑誌	6	1.4	5.4%
特定目的・ブログ	11	1.1	4.1%
出版・書籍	27	1.0	3.8%
特定目的・知恵袋	9	0.9	3.3%
合計	206	26.3	100.0%

表 44 から分かるように、「(の) じゃないだろうか」は使用頻度が低いですが、使用傾向として、特定目的・国会会議録での使用が6割も占めており、特徴の一つだと言える。次に「(の) じゃないでしょうか」の各レジスターにおける調整頻度を表 45 に示す。

表 45 「(の) じゃないでしょうか」レジスター別調整頻度

	出現数	PMW	PMW 中の割合
特定目的・知恵袋	728	71.1	57.3%
特定目的・国会会議録	94	18.4	14.8%
特定目的・ブログ	81	8.0	6.4%
出版・雑誌	31	7.4	6.0%
特定目的・ベストセラー	25	6.7	5.4%
図書館・書籍	178	6.2	5.0%
出版・新聞	3	3.4	2.8%
出版・書籍	71	2.6	2.1%
特定目的・広報誌	1	0.3	0.2%
合計	1212	124.1	100.0%

「(の) ではないでしょうか」と同じように、「(の) じゃないでしょうか」も特定目的・

知恵袋での使用が最も多いことが分かった。

以上の内容をまとめると、まず4つの形式の中で、使用頻度として、「(の) ではないでしょうか」、「(の) ではないだろうか」、「(の) じゃないでしょうか」、「(の) じゃないだろうか」という順に上から下に並べている。そして、使用傾向を見ると、「(の) ではないでしょうか」と「(の) じゃないでしょうか」は特定目的・知恵袋で使用されやすく、「(の) じゃないだろうか」は特定目的・国会会議録での使用が目立ち、「(の) ではないだろうか」はいずれかのレジスターにおける使用が目立つことなく、比較的均等に用いられることが分かった。

3.7 おわりに

本章はBCCWJで収集した「(の) ではないか」のバリエーションごとに、その使用頻度と使用傾向について見てきた。結論として、バリエーションにより、それぞれの使用頻度と使用傾向が違ってくるのが分かった。なお、表46に上位10個のバリエーションの調整頻度と最も多く使用されるレジスターを示す。これで、この10のバリエーションの使用頻度も使用傾向も明らかになる。

表 46 高頻度バリエーションリスト

順位	バリエーション	PMW	レジスター
1	(の) じゃないですか	2606.9	特定目的・ブログ(39.9%)
2	(の) ではないか	1690.4	特定目的・国会会議録(41.6%)
3	(の) じゃないか	990.0	特定目的・国会会議録(39.9%)
4	(の) ではないでしょうか	397.5	特定目的・知恵袋(46.9%)
5	(の) じゃないかな	192.7	特定目的・知恵袋(29.8%)
6	(の) ではないだろうか	187.5	特定目的・国会会議録(19.0%)
7	(の) じゃないでしょうか	124.1	特定目的・知恵袋(57.3%)
8	(の) じゃないの？	68.2	特定目的・知恵袋(43.5%)
9	(の) じゃありませんか	67.7	特定目的・国会会議録(28.7%)
10	(の) ではありませんか	61.0	特定目的・国会会議録(25.4%)

第4章 「(の)ではないか」の分類と用法

4.1 はじめに

本章においては、職場コーパスから収集した「(の)ではないか」の用例⁹を分析し、意味・機能の面から「(の)ではないか」の分類と用法について考察する。

まず、4.2において、職場コーパスからの用例収集について紹介する。

次に、4.3において、「(の)ではないか」の分類と各分類の相違点について論じる。

そして、4.4において、「(の)ではないか」の各分類の細かい用法について論じ、また各用法間の関係についても論じる。

4.2 職場コーパスからの用例収集

この節では、職場コーパスという会話コーパスからの用例収集を紹介する。職場コーパスというのは、首都圏で女性、男性それぞれ19名の協力者による職場での自然会話を録音し、データ化した言語資料である。異なる職種・職場において、20代から50代の被験者を対象に、インフォーマルな場面とフォーマルな場面での自然会話を収録している。女性の被験者は20代5人、30代5人、40代6人、50代3人からなり、男性の被験者は各世代5名からなる。データ化したものは被験者のものだけでなく、被験者と会話を交わした発話者の会話も含まれている。

用例収集する際に、第2章で整理した「(の)ではないか」のバリエーションを全て検索してみた。合わせて373例あるが、「では」類の用例が非常に少なく、「(の)ではないか」と「(の)ではないかな」以外、他のバリエーションは収集できなかった。それに対し、「じゃ」類のバリエーションが比較的によく、用例数はあまり多くないが、終助詞「な」、「ね」と「よ」と共起するものも、「だろう」と共起するものも、タ形と共起するものも収集できた。職場コーパスが収録しているのは自然会話であるため、「じゃ」類が多く用いられるのも考えられる。ただし、この中で、最も使用されているのが「じゃん」である。そのため、首都圏では、自然会話において、「じゃん」が多用されると言えよ

⁹ 第4章では基本的に職場コーパスの用例を使用するが、例外が出る場合、明記する。

う。これら「じゃん」の用例は後の第5章で詳しく扱う。

なお、職場コーパスから収集した用例数を表47に示す。

表47 職場コーパスの用例数

バリエーション	使用数	割合
じゃん	129	34.6%
(の) じゃないの	76	20.4%
(の) じゃないですか	70	18.8%
(の) じゃない (の) かな	45	12.1%
(の) じゃないか	39	10.5%
(の) ではないか	5	1.3%
(の) じゃないかよ	3	0.8%
(の) ではない (の) かな	2	0.5%
(の) じゃなかったかな	1	0.3%
(の) じゃないかね	1	0.3%
(の) じゃないだろうか	1	0.3%
(の) じゃないでしょうか	1	0.3%
総計	373	100.0%

以上の4.2において、職場コーパスからの用例収集について紹介したが、次の4.3で「(の) ではないか」の分類について見る。

4.3 「(の) ではないか」の分類

この節には、「(の) ではないか」の分類と各分類の相違点について論じる。まず4.3.1において、「(の) ではないか」の分類について述べる。そして、4.3.2において、構文的特徴から各分類の相違点について述べる。最後の4.3.3において、文法化の度合いという角度から、各分類の相違点について述べる。

4.3.1 「(の) ではないか」の3分類

本研究では、田野村(1988)の分類基準にそって、「(の) ではないか」を「(の) ではないかⅠ」、「(の) ではないかⅡ」と「(の) ではないかⅢ」と3分類する。そして、さらに、聞き手に共通認識を要求するか否かの基準により、各分類の用法を細かく分ける。

「(の) ではないかⅠ」は聞き手に共通認識を要求しない場合、「発見」と「提示」の用法がある。さらに、「提示」の用法を詳しく「判断の提示」、「評価の提示」と「意見の提示」と3分類する。聞き手に共通認識を要求する場合、「確認」の用法となる。そして、「(の) ではないかⅠ」には「～(よ)うではないか」という特別の形式もあるが、聞き手に共通認識を要求しない場合、「自己意志の表明」となり、聞き手に共通認識を要求する場合、「勧誘」の用法となる。

「(の) ではないかⅡ」は聞き手に共通認識を要求するか否かと関係なく、話し手自身の推定を表す用法もあるが、それを「推測」と呼ぶ。

「(の) ではないかⅢ」は「ない」が否定辞本来の意味を発揮しており、「(の) ではないかⅠ」と「(の) ではないかⅡ」とは性質の違うものである。そのため、本研究においては、主に「(の) ではないかⅠ」と「(の) ではないかⅡ」の用法を扱う。

なお、筆者による「(の) ではないか」の分類法を簡潔にまとめると、以下の表48である。

表48 筆者による「(の) ではないか」の分類

(の) ではないかⅠ	発見	
	提示	①判断の提示
		②評価の提示
		③意見の提示
	確認	
ようではないか	①意志の表明	
		②勧誘
(の) ではないかⅡ	推測	
(の) ではないかⅢ	否定疑問文	

以上、「(の)ではないか」の分類について述べたが、次に構文的特徴から各分類の相違点について述べる。

4.3.2 構文上の区別

「(の)ではないかⅠ」と「(の)ではないかⅡ」は外形上類似し、混同されやすい。この節において、田野村(1988)を参考にしながら、構文的特徴から両形式の相違点について述べる。

田野村(1988)は「「ではないか₁」は、「ではないか_{2,3}」と同様、一応は「で」「は」「ない」「か」のように形態的に分割できるとは言え、一個の全体としての纏まりが強く、内部構造の変更に対して厳格である。」¹⁰と述べている。その上で、田野村(1988)は「ではないか₁」と「ではないか_{2,3}」のそれぞれの特性を紹介した。本研究はそれを具体的にまとめ、例を挙げながら、「(の)ではないかⅠ」と「(の)ではないかⅡ」の相違点を見ていく。

- ①「(の)ではないかⅠ」は体言または用言に接続するのに対して、「(の)ではないかⅡ」は体言に接続するのみである。用言に接続する場合、「のだ」を含まなければならない。これは「(の)ではないかⅠ」は「(の)ではないかⅡ」から独立の形式と見る根拠でもある。例えば、体言に接続すると、「(の)ではないかⅠ」も「(の)ではないかⅡ」も「のだ」(名詞の場合、「なのだ」になる)が含まれない場合がある。例えば、(115)は「発見」を表す「(の)ではないかⅠ」の用例であり、(116)は「推測」を表す「(の)ではないかⅡ」の用例である。両者とも体言にそのまま接続している。

(115) 10C : えびがはいってる。

10A : あ、えび↑ シュリンプじゃないですか。

(116) 05G : 怖いから同席してくれっちゅう。<笑い 複数>

05A : だれが怖いのよー。

05G : <笑いながら>いや、所長じゃないですか。

¹⁰ 田野村(1988)は「ではないか」を3分類し、それを順に「ではないか₁」、「ではないか₂」、「ではないか₃」と記し、更に、「ではないか₂」と「ではないか₃」の間の相違は小さいと考え、「ではないか₂」と「ではないか₃」を一括して扱うことが多く、その際には「ではないか_{2,3}」と記する。

05A: えっ↑いや、別に恐くないよねー、そのー、やっぱり商売してる時には
ー、ねー、商売の話をしてるわけだからー。

しかし、「(の) ではないかⅡ」は体言に接続すると、(116) のように、そのままになる場合もあるが、「名詞+なのだ」のような形式をとることが多い。例えば、次のような用例がある。

(117) 17A: や、ちょっと内容的にー、ぼくー最初解釈してたの、ちょっと違ってー
{えー (17E)}、そいでこれ、[名字+名前] さんに、あのー、お願いした
んですよー {はーはー (17E)}、そしたら裏面をこう見てですねー↑、あ、
<笑い (17E) >こうゆう内容なんじゃないですか↑、ってぼくゆわれたも
んですから {あー (17E)} あっ、そうだー、と思って、そいでやってもら
ったんです。

次に、用言に接続する場合、「(の) ではないかⅡ」は「のだ」を含まなければならないが、「(の) ではないかⅠ」には「のだ」が含まれない場合が多い。例えば、(118) は「確認」を表す「(の) ではないかⅠ」用例で、直接用言と接続することが多い。一方、「推測」を表す「(の) ではないかⅡ」の場合、(119) のように「のだ」を含まなければならない。

(118) 09M: →フランス語か。←アニエスベーってあるじゃないですか。

09A: あー、★ブランドで。

(119) 16A: なんか訴えられたりしたんじゃないですか↑

② 「(の) ではないかⅠ」には、「ない」をタ形「なかった」にした言い方にしたはない。それに反して、「(の) ではないかⅡ」にはそういう形が存在する。例えば、

(120) のような形は「(の) ではないかⅡ」にしか現れないものである。

(120) そのとき私は彼の詐術を見たように思ったのだが、わざわざああして路上に崩折れたのは、女の注意を惹くためであったのは勿論だが、怪我の仮装で彼の内鬨足を隠そうとしたのではなかったか? (中日対訳コーパス)

③ 「(の) ではないかⅠ」は末尾部分を「～かな (あ)」「～かしら」にする言い方が不可能だが、「(の) ではないかⅡ」は可能である。例えば、(121) と (122) のような形は「(の) ではないかⅡ」にしか現れない。

(121) 20D: それは科の独自性とは違うでしょ、と。{うん (20A)} 大学も、あれ
じゃないの↑、が、学科ごとに卒業単位ってんじゃなくて、124 単位なら

124 単位って全部決まって###。

20C：最低は一緒なんじゃないかな。

(122) それだけならまだ可いのですが、時にはKの方でも私と同じような希望を抱いて岩の上に坐っているのではないかしらと忽然疑い出すのです。

(中日対訳コーパス)

④ 「(の) ではないかⅠ」の場合には、推量を表す「だろう」「でしょう」を加えた言い方「(の) ではないだろうか」「(の) ではないでしょうか」は不可能である。一方、「(の) ではないかⅡ」の場合には、それが可能であり、またこれを更に、「(の) ではなからうか」「(の) ではあるまいか」とすることもできる。例えば、(123) と (124) のような形は「(の) ではないかⅡ」にしか現れない。

(123) この会社、つぶれるんじゃないだろうか----よけいなお世話かもしれないが、そう思った。

(中日対訳コーパス)

(124) 「さあ、来ていらっしゃるんじゃないでしょうか。三沢さんは、いつもお店からいるのを遠慮なさって横手からおはいりになりますから—」

(中日対訳コーパス)

⑤ 「(の) ではないかⅠ」は、「か」を「の」で置き換えた言い方が可能であり、この場合の「の」は終助詞である。例えば、(125) は「確認」を表す「(の) ではないかⅠ」類に属し、「じゃないの」のような形が存在する。

(125) 13C：で、[名字の一部] ちゃんも一、そうゆうフォロー入れてくれないのよね一。★悪者に。

13B：→入れた←じゃないの一。

13C：★だって、悪者にするじゃない。

13B：→だから、話を、話を←別の話にもってったじゃ★ないの一。

13C：→は一、←別の話にもってかなくて、切り上げていいのよ一。

それに対して、「(の) ではないかⅡ」の場合には、「か」の前に「の」を加えた形「(の) ではないのか」が考えられ、この場合の「の」は「のだ」の「の」である。例えば、(126) と (127) は田野村 (1988) をそのまま引用したものだが、推測を表す「(の) ではないかⅡ」の用例である。要するに、(126) を (127) のように変えることはできるが、「(の) ではないかⅠ」の場合、そういうことは不可能である。

(126) (不審な様子から) どうもあの男犯人じゃないか?

(127) (不審な様子から) どうもあの男犯人じゃないのか?

⑥「(の) ではないかⅠ」は蓋然性を表す認識副詞と共起できないのに対し、「(の) ではないかⅡ」は共起できる。例えば、(128) のような例がある。

(128) →きっと←なんか方言からきてんじゃないかな、うざったいって。 (CSJ)

以上、構文的特徴から「(の) ではないかⅠ」と「(の) ではないかⅡ」の相違点について述べた。次の 4.3.3 において、文法化の度合いという角度から、各分類の相違点について述べる。

4.3.3 文法化の度合い

この節において、文法化の度合いという角度から、「(の) ではないか」の 3 分類の相違点について述べる

周知のように、「(の) ではないか」は「の」、「で」、「は」、「ない」、「か」という 5 つの単独の要素からなり、一まとまりの複合的な表現となった。単独な文法的要素から一まとまりの表現に変化し続ける過程は文法化であるが、本研究はその通時的な変化の過程に重きを置かず、現代語における「(の) ではないか」の文法化の度合いについて考察し、3 種類の「(の) ではないか」の相違点を明らかにする。

第 1 章でも述べたように、大堀 (2005) によると、文法化の基準として、意味の抽象性、範列の成立、標示の義務制、形態素の拘束性及び文法内での相互作用という 5 つがある。本研究は 5 つの基準に基づき、3 種類の「(の) ではないか」の文法化の度合いについて検討する。その結果を以下のようにまとめる。

①意味の抽象性

意味の抽象性とは、具体的な意味が薄れて、抽象的な意味を表すようになることである。

「(の) ではないか」のそれぞれの意味から見ていくと、3 種類とも抽象的な感じはするが、「(の) ではないかⅢ」だけが、「ない」本来の否定辞の働きが保留されているため、文法化の度合いが最も低いと言えよう。しかし、「(の) ではないかⅠ」と「(の) ではないかⅡ」は、「ない」を含むとは言え、両者とも否定の意味合いが含まれず、どちらの意味がより抽象的なのかも言いにくいいため、この点においては、結論を出すことは難しい。

それから、文末の「か」の働きについて見る。一般的に、「か」は終助詞として文末に現れ、疑い・問いかけなどを表す。「(の) ではないか」には「か」が含まれており、「か」の本来の性質が残されているのはどれなのかを見ていく。「(の) ではないかⅠ」は発見、提示、確認などの意味がある。その中で、「確認」を表すときのみ、少し「か」の要素が残っ

「(の) ではないかⅡ」は全部できる。故に、より自由な存在は「(の) ではないかⅡ」のほうである。こうして、次のようなことが言えよう。

(の) ではないかⅠ > 「(の) ではないかⅡ」

⑤ 文法内での相互作用

文法内での相互作用とは「一致現象」である。例えば、いわゆる否定の呼応現象がこれである。

この点においては、「(の) ではないかⅠ」は蓋然性を表す認識副詞と共起できないのに対し、「(の) ではないかⅡ」は共起できることからみると、「(の) ではないかⅡ」のほうが、やや文法化の度合いが高いと言えよう。しかし、前項に蓋然性を表す認識副詞が現れれば、後項に「(の) ではないかⅡ」が必ず出るという呼応関係がないわけであり、ここでの判断は少し妥当性が欠けるように思われる。一応、「文法内での相互作用」という基準においては、次のような結論を出すことが出来よう。

(の) ではないかⅡ > 「(の) ではないかⅠ」

以上の5つの基準から分析してみた結果、「(の) ではないかⅠ」のほうが、「(の) ではないかⅡ」より、文法化の度合いが高いケースが多いが、かなりばらつきがあるような感じもあるため、一概には言えない。

以上の4.3において、「(の) ではないか」の分類方法及びそれぞれの相違点について述べた。次の4.4において、各分類の細かい用法について論じる。

4.4 「(の) ではないか」の用法

この節において、「(の) ではないか」の細かい用法について述べる。4.4.1において、「(の) ではないかⅠ」の用法、4.4.2において、「(の) ではないかⅡ」の用法を見る。4.4.3において、各用法間の関係について述べる。

4.4.1 「(の) ではないかⅠ」の用法

この節では、発見、提示と確認の用法を見て、最後に特別の形式の「～(よ)うではないか」について見る。

4.4.1.1 発見

話し手が今まで気づいていない物事、現象などが目の前で発生し、それに対して驚きなどの感情をこめて表す場合、「発見」の用法である。ただし、話し手が聞き手に共通認識を要求する場合、後述する「確認」の用法となる。発見を表す「(の)ではないか」は以下のような例がある。

(129) 10C : えびがはいってる。

10A : あ、えび↑シュリンプじゃないですか。

(129) は、話者が話し相手の注意で、えび/シュリンプが入っていることに気づき、驚いていることを表す。

張 (2004) により、発見を表す「(の)ではないか」は、発見を表す「と」条件節に出現したり、「なんと」、「なんて」のような感嘆を表す副詞と共起することができるという。これについては、筆者の修士論文 (凌 (2010)) においても検証している。以下の (130) と (131) は凌 (2010) から引用した用例である。

(130) 明窓の障子を開けて見ると紫菀の花なぞが咲いてるじゃないか。

(131) 渡されたサインペンで、『乙武洋'97・7・15』と書き入、「これでいいですか」と顔を上げたボクは、しばらく固まってしまった。なんと、彼女の後ろに10人近くが並んでいるではないか!

しかし、今回の職場コーパスにおいて、このような用例は一例もなかった。

4.4.1.2 提示

「(の)ではないか」は話し手が何かを述べ、自分自身の判断や評価、および意見を表すのに使用される場合、合わせて「提示」と呼ぶ。しかし、判断、評価と意見を同じように扱うわけにはいかないため、それぞれを①「判断の提示」、②「評価の提示」、③「意見の提示」とする。

①判断の提示

判断の提示とは、話し手が物事を理解し、論理、基準などに従い、決めた考えを示す用法である。ただし、話し手が聞き手に共通認識を要求する場合、後述する「確認」の用法となる。

(132) 06B : だからー、あの一、ぼくはやっぱり、で、やっぱりま、クーラー、ま、それはあの一、ま、だから、そうゆうときはどっかクーラーのあるところへ行っ

てやる、ここはつけないとゆうほうが、あの、ぼくはいいんじゃないかと思
うんですよ

06A：なるほど。

(133) 14H：とにかくあのー、いっしょけんめやってくれる人はいいんですけどね、親身
になってね。せっかくですから。やっぱりあの、かつ。＜言いさし＞

14J：人間対人間の問題だから。

14H：あたった人によって非常に格差が出てくるじゃないかと思う、思うんですけ
どね。

15E：パブレストランのパブですかってゆう人もあるんだけど。

(132) はクーラーをつけるべきかということに対し、話し手が付けられないほうがいと自
分の考えを述べた用法である。(133) は大学事務員の間で、チューターの公募について話
し合う会話であり、話し手が「あたった人によって非常に格差が出てくる」と自分なりの
考えを述べる用例である。

こうして、「判断の提示」を表す「(の) ではないか」はよく「～と思う」の形と共起す
ることが分かる。中には「～と」の形で終わる例もある。例えば、

(134) 20C：バラバラにやる###。

20B：基本的にねー、そうゆう観点からすればー、うーん、おかしいんじゃないか
と。だから、なんのために変えるのかってゆう、ところもあるんだよね。

(134) の場合、「と」の後ろの「思う」を省略された例であり、「～と思う」の形と同視
する。もちろん、「判断の提示」を表す「(の) ではないか」の全てが「～と思う」の形を
取るわけではない。普通に文末に現れる例も存在する。例えば、(135) は文末に使う判断
を表す用例である。

(135) 09A：あのー、えーとねー、塗装の人は[名字(09J)]さんだけか。あのー、組
立ラインだとさー、たとえばねー、こうゆうものってあるかな。とゆうのは、
ちょっと、認識としてあるかどうか。

09J：排ガス装置のドアぐらいじゃないですか。

09A：排ガス装置。あのー、いちばん最後の車検んところ↑

②評価の提示

評価の提示とは、物事の性質、良し悪しなどを定めた評価を示す用法である。ただし、
話し手が聞き手に共通認識を要求する場合、後述する「確認」の用法となる。今回、職場

コーパスから収集した用例の中に、「じゃん」以外、評価の提示を表す用例がなかったため、BCCWJ の用例を挙げる。

(136) 早坂：彼は天才だからね。

堀田：天才だからね。だから、もともとそういうタイプですよ。今度、監督になられて、すごいじゃないですか。人の使い方がね。 (BCCWJ)

用例 (136) は話し手 (堀田) が「監督になった人」に対する自分の評価を述べている。「評価の提示」を表す「(の) ではないか」は、「すごい」、「いい」、「偉い」のような評価を表す言葉と共起しやすい。

③意見の提示

意見の提示とは、物事に対する話し手自身の主張を示す用法である。ただし、話し手が聞き手に共通認識を要求する場合、後述する「確認」の用法となる。

(137) 06A：ほかに一、ほかの方 (かた) はどうでしょうか。

06E：今あの一、授業が一 7 月の終わりまで一、{え一、え一 (06A)} あるし一、それを考えるとぼくは、あの一、向こうの講義棟のですね一、ぜんぶクーラーを {うーん (06A)} 設置したほうがいいかと★###。

(138) 09B：あと 5 番の一、{はい (不明・男)} え一、じょーきーん (常勤) 業者の、お一詰所 (つめしょ)、作業場 (ば) ってゆうことで一、え一、まず入口のほうにですね一、空き缶が、あの一、プラスチックのゴミかごに一、上下 (じょうげ) 2 段にいっぱいになってたんで一あれは定期的に捨てられたほうがいいんじゃないかと。

(137) は話し手が向こうの講義棟に全部クーラーを設置したほうがいいという主張を表す例であり、(138) はごみを定期的に捨てたほうがいいという主張を表す用法である。「(の) ではないか」はそのどちらの例においても、「…ほうがいい」の形と共起している。今回の研究で、「意見の提示」を表す「(の) ではないか」はよく「…ほうがいい」の形と共起することが分かったが、その次に多い形式は「…ばいい」である。例えば、

(139) 15A：\$#####、あの一高校の時の先生が一 {うん (15C)}、## に来てくれたんで一、<笑い>一緒に飯食い行ったんですよ一 {うん (15C)}、たら、ポイント、なんかスタンプいっぱい、たまるやつだから。

15C：カード作ればいいんじゃないか一。

15A：はい。

「…ほうがいい」はよいと思われることを述べて、聞き手に対して忠告やアドバイスを
する時に使う表現であり、「…ばいい」は相手に特定の行動をとるように勧めたり、提案し
たりする表現である。「(の) ではないか」はそのアドバイスや提案を提示する役割を果た
している。

以上、提示の用法について論じた。次の 4.4.1.3 において、確認の用法について述べる。

4.4.1.3 確認

確認とは話し手が聞き手に情報を提示し、自分と同じように認識させようとする用法で
ある。その情報は話し手だけにある場合と、話し手と聞き手の両方にある場合がある。

(140) 12B : で、それからその当時スペインからなんか、あの、ピラピラあるじゃないで
すか、襟。

12C : うん、うん。

12A : うん、うん、襟のピラピラ。

用例 (140) は話し手が聞き手も知っているのだろうと、スペインからの「襟のピラピラ」
があることを提示し、聞き手に自分と同様な認識状態になるようと要求する例である。

(141) 11H : 母国語がベンガル語なんでしたっけ↑

11E : きのうやってたじゃないか、バングラディッシュなあ↑NHK (エヌエチケー)
で。

11H : なにがですか。★特集で↑

(141) は話し手が聞き手に「昨日、NHK でバングラディッシュやっていた」ことを提示し、
同じように認識させようとする用例であるが、聞き手の反応をみると、その情報は話し手
のほうにあることが分かる。ただし、情報はどちらにあるかを判断するには、会話の前後
文を考慮しなければならない。

以上は確認の用法について見たが、次の 4.4.1.4 において、「～(よ)うではないか」と
いう形式を見る。

4.4.1.4 「～(よ)うではないか」

「(の) ではないか」は意志動詞の意志形に接続し、「～(よ)うではないか」の形で、
話し手の意志形成を表し、話し手自身の意志を提示する。ただし、聞き手を巻き込んで認
識を確立させようとする場合の「～(よ)うではないか」は「勧誘の提示」の用法となる。

今回の職場コーパスにおいて、一例しか収集できなかった。

(142) 04B：だから、まあ、その、そうゆう専門家による検討会議をやって、(うんうん
うん In (f 女)) その検討結果を踏まえて (うーん In (f 女)) また審議会のほうで★議論しようじゃないかってゆう話になりまして。

04A：→あ、なるほどね、うん、なるほどね、←うん。

(142) は典型的な例ではないが、検討結果を踏まえてまた審議会のほうで議論しようという誘いかけを表しているので、勧誘の用法となる。

ここからは中日対訳コーパスの例を引用しながら、「意志の提示」及び「勧誘の提示」の用法の説明をしたいと思う。

(143) 私一人に終らせず御同業の全国大学教員すべてに、心からの安堵を呈すべく、やや無理な切り継ぎ引用をあえてした次第である。この貴重な証言を残してくれた田中美知太郎に、深く感謝の意を表しようではないか。 (中日対訳コーパス)

(144) 子路としては先ず己の主人を救い出したかったのだ。さて、広庭のざわめきが一瞬静まって一同が己の方を振向いたと知ると、今度は群集に向って煽動を始めた。太子は音に聞えた臆病者だぞ。下から火を放って台を焼けば、恐れて孔叔を舍すに決っている。火を放けようではないか。火を！ (中日対訳コーパス)

(143) は話し手が田中美知太郎に自分の感謝の意を表すという意志を表す例であり、(144) は話し手が自分の主人を救い出すために、放火をする決意を表す例である。意志の提示を表す場合、心内文であるケースが多く存在する。またそうであるゆえ、今回の職場コーパスにおいて、用例が少なかった要因になると思われる。なお、テレビドラマにおいて、次のような用例があった。用例の話し手の名前はドラマの登場人物の名前である。

(145) 戸川：はい、分かりました。あと、斑目所長が早速殺人事件の弁護を引き受けたようです。

佐田：この深山という男がいる。こいつに任せろ。

戸川：はい、失礼致します。

佐田：お手並み拝見といこうじゃないか。

(145) の「お手並み拝見といこうじゃないか。」は話し相手が去った後、話し手が発した独自の会話であり、その心理活動を表している。

(143)、(144) と (145) は聞き手の関与と関係なく、話し手の意志を提示する用法であるが、話し手が聞き手に自分の主張をアピールし、さらに自分が望んでいる行動を聞き手

に要請する場合、勧誘の提示となる。

(146) 「厄介だな。それじゃ濡衣を着るんだね。面白くもない。天道是耶非かだ」

「まあ、もう二三日様子を見ようじゃないか。それで愈となったら、温泉の町で取
って抑えるより仕方がないだろう」 (中日対訳コーパス)

(147) 「妙に今夜は眠られない」と銀之助は両手を懸蒲団の上に載せて、「まあ、君、も
うすこし話そうじゃないか。僕は青年時代の悲哀ということを考えると、毎時君の
為に泣きたく成る。～」 (中日対訳コーパス)

(146) は話し手が聞き手にもう二三日様子を見ることを勧誘し、(147) は話し手が聞き手
にもう少し話をするを要請している。(146) と (147) のどちらも話し手自身の意志で
あるが、聞き手にそう行動しようと要求するほうに傾いている。

以上、4.4.1において、用例と共に「(の) ではないかⅠ」の用法について見たが、次の
4.4.2において、用例と共に「(の) ではないかⅡ」の用法を見る。

4.4.2 「(の) ではないかⅡ」の用法

「(の) ではないかⅡ」は推測を表す。推測とは、今までに知っている知識や情報などを
基に、物事について多分そうであろうと推定する用法がある。話し手は完全に確定できな
いが、それを認めるほうに傾いている。

(148) 11F: まだお元気じゃないですか↑

11C: いや、ほんとはねー。うちは早かったから、父が亡くなったのは。

11A: あれ、その歳で、あれ、その歳で高等師範ですか↑文理大じゃ★なくて。

(148) は話し手が確かな情報を持っていないが、多分聞き手のお父さんがまだ元気であろ
うと推定した例である。推測を表す「(の) ではないか」は確定できない場合が多いため、
(148) のように上昇のイントネーション(↑は上昇イントネーションを表す)をとるか、
または文末に「かな(あ)」と共起することが多い。

(149) 05 男: どのことばだろね、★うざったいって、★あれ。05A→ね。←→きつと←
なんか方言からきてんじゃないかな、うざったいって。

05 男: いや、東京ですよ。

(150) 06A: 組織図で逃げる。

06B: んー、それであとー、ちょっとー、概説でしよいきれないとこカバーするし
かしょうがないんじゃないかな。

また「だろう」や「でしょう」と共起する用例もある。

(151) 09B: そうゆう、ああゆー、ま排水処理だと、薬品扱ってますんでー、メガネだとかですねー、ゴム手袋の、着用基準、書く必要があるんじゃないだろうか。

(152) 13 G: ちょっと、###くれるあ、あ、じゃあ、これ、修正を。うん、こことここがね、こうゆうことじゃないでしょうかって。

以上、「(の)ではないかⅠ」と「(の)ではないかⅡ」の用法について見たが、次の4.4.3において、各用法間の関係について述べる。

4.4.3 各用法間の関係

以上、それぞれの構文的特徴と意味的特徴に基づき、「(の)ではないかⅠ」と「(の)ではないかⅡ」の用法について紹介したが、実は各用法の間には連続するところがあるため、截然と分類できないような場合も存在する。例えば、(153)のような用例は、話し手が「2000円もするスタジオ代がっらい」という自分の主張を表しながら、聞き手にも自分と同じような認識を要求している。要するに、「判断の提示」でもありながら、「確認」の用法も入っている。

(153) 21A: スタジオ代でさー、ひとり 2000 円でっらいじゃないか、練習。

21B: っらいよー、絶対いやだ。

(153) のような場合は、「(の)ではないかⅠ」類の内部で発生しているが、「(の)ではないかⅠ」と「(の)ではないかⅡ」に跨って起こることもある。例えば、(154) のような用例は、話し手が自分の推測を言いながら、聞き手に「そうであろう」と確認を取っているようなものである。この場合は「確認」用法と「推測」用法の連続¹¹が見られる。

(154) T: あの韓国で日本語を勉強したい人は多いですか

S: 多いですね

T: ふーん、む、昔は、うーん、したくない人も多いんじゃないですか

S: でも、日本語を勉強したくない人、したくないって言っている人はあまりいないです

連続性は以上のような場合だけでなく、また各用法間にも存在するものである。この現

¹¹ ここでいう「連続」は用法が全く同じということではなく、各用法は独立した特徴を持ちながら、互いに重なる部分がある。問題はその重なる部分はどんなものなのか、なぜその部分が生じるのかである。それを究明するのが今後の課題である。

象をどう説明すればいいかはかなり難しい問題であり、または、より妥当な分類方法が見つかれば解決できるのかもしれないが、これを今後の課題として考察をしたい。

4.5 おわりに

本章では、職場コーパスから収集した用例の分析と共に、「(の) ではないか」の分類及び各分類の細かい用法について述べた。それをまとめると、以下の表になる。

表 49 「(の) ではないか」の分類と用法

		共通認識 を要求す る	共通認識 を要求し ない	
(の) ではないか I	①発見	×	○	
	②提示	a 判断の提示	×	○
		b 評価の提示	×	○
		c 意見の提示	×	○
	③確認	○	×	
④～(よ)うではないか	a 意志の表明	×	○	
	b 勧誘	○	×	
(の) ではないか II	⑤推測	○	○	
(の) ではないか III	⑥否定疑問文	○	○	

そして、「(の) ではないか」の3分類には相違点が存在しており、それは構文の特徴から、また文法化の度合いの高低から区別することができる。さらに、各用法の間には連続性が見られており、互いに独立しているものでもありながら、重なる部分もあり、どちらにもなれるような場合も存在する。この点においては、より詳しく考察していく必要を感じ、今後の課題として研究していきたいと思う。

第5章 「じゃん」について

5.1 はじめに

本章では「(の) ではないか」の類似表現「じゃん」について考察する。「じゃん」は静岡県から横浜に伝わり、更に東京に入ったという。本章はまず、5.2 において、「じゃん」の実態調査を行う。そして、5.3 において、職場コーパスと CSJ で収集した用例を使い、「じゃん」の用法を見て、「(の) ではないか」と「じゃん」の相違点を見る。

5.2 「じゃん」の実態調査

職場コーパスにおける「じゃん」の調査は既に第4章において行ったため、本章では、更に、「日本語話し言葉コーパス（以下はCSJと呼ぶ）と、日本語日常会話コーパス（以下はCEJCと呼ぶ）を加える。そして、「じゃん」、「じゃんか」と「じゃんね」¹²という3つの形式を扱う。この実態調査を通じて、「じゃん」はどのような年齢層、どのような場面で使用されるかを明らかにし、また男女差が存在するかどうかを究明する。

5.2.1 職場コーパスでの使用実態

職場コーパスにおいて、「じゃん」を128例、「じゃんね」を1例収集した。次に「じゃん」を使用した人の年齢と性別を見る。

表 50 職場コーパスにおける「じゃん」の使用実態

	10代	20代	30代	40代	50代	計
女性	0	56	10	4	1	71
男性	1	15	22	9	7	54
総計	1	71	32	13	8	125

¹² 松丸（2001）によると、「じゃんね」の形は存在しないというが、実際に使用されている。

表 50 を見ると、職場コーパスにおいて、10 代～50 代に渡り、「じゃん」はかなり広い年齢層に使用されるが、20 代、特に 20 代の女性による「じゃん」の使用が最も目立つ。

5.2.2 CSJ での使用実態

CSJ において、「じゃん」を 45 例、「じゃんね」を 1 例収集した。次に「じゃん」を使用した人の年齢と性別を見る。

表 51 CSJ における「じゃん」使用実態

	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	計
女性	0	14	4	4	1	23
男性	0	15	6	1	0	22
総計	0	29	10	5	1	45

CSJ において、20 代～50 代に渡り、「じゃん」はかなり広い年齢層に使用されるが、20 代による「じゃん」の使用が最も多いが、男女差はあまりない。

5.2.3 CEJC での使用実態

CEJC において、「じゃん」を 1239 例、「じゃんか」を 35 例、「じゃんね」を 23 例収集した。次に「じゃん」を使用した人の年齢と性別を見る。

表 52 CSJ における「じゃん」使用実態

	0～9	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代	90 代	計
女性	2	12	115	150	170	190	38	3	3	1	684
男性	7	59	194	93	80	42	28	52	0	0	555
総計	9	71	309	243	250	232	66	55	3	1	1239

CEJC は 3 つのコーパスの中で、最も最近に公開されたデータであり、調査対象も 0 歳から 90 代に渡り、すべての年齢代が含まれている。表 52 から、女性のほうが「じゃん」をよく使用することが分かる。そして、「じゃん」の使用は全ての年齢層に渡るが、20 代が

最も多い。

5.2 をまとめると、「じゃん」、「じゃんか」と「じゃんね」の3つの形式のうち、「じゃん」が最も使われやすい。そして、調査時において、「じゃん」は20代の若い人に多用される。

次に「じゃん」の用法について見る。

5.3 「じゃん」の用法

この節において、職場コーパスとCSJから収集した「じゃん」の用例を分析し、「じゃん」の用法を究明し、「(の)ではないか」との比較を行う。職場コーパスから128例、CSJから45例を収集したが、副詞の「じゃんじゃん」のような妥当ではない用例を除外すると、それぞれ120例と41例になる。それぞれの用例を分析しながら、「(の)ではないか」と同じ順番で「じゃん」の用法を見る。

5.3.1 発見の「じゃん」

発見を表す用例として、以下の用例がある。

(155) 18J: お、こりゃ涼しいじゃん、天気予報はずれだよー。

18A: えー、<笑いながら>予想最高31度。

18J: ま、まだ、こだわってんだね↑

8A: うん、ま、まだ、予想に比べれば。きょう32とかいってましたからね、最初。

(156) 18A: あ、<笑いながら>別にそれはー、え、だいじょぶですけどー、はい。じゃー、お預かりをします。

18H: \$#### {はい (18A)}、#### {はい (18A)}。

18A: はい、お預かりしまーす。<間 15秒>だめじゃん、だめじゃんだめじゃんだ、あっ。こうゆうことなのかな↑、ちょっと待って下さいね。今、ちょっと原因を究明します。

18B: はい↑<間 5秒>

18A: あれ、[名字 (18E)] さんの名前で入ってる。

(155) は話し相手の注意ではなく、自分が持っている天気予報の情報により、本当は暑い

はずの天気が思ったより涼しいことに気づいた例文であり、驚きのニュアンスも入っている。(156) は自分自身で何かを操作し、うまくいかないことに気づいた用例である。

5.3.2 提示の「じゃん」

この節において、判断の提示、評価の提示と意見の提示を表す用例を1例ずつ挙げる。

(157) 09M: なんでスウェーデンなんか行くの。なんで行くの↑

09K: いや、夏、暑かったから。<笑い 複数>

09M: なんか違う理由があるんじゃないの。<笑い 複数>

09M: だって普通さー、旅行ってスウェーデン行こうって話にならんじゃん。

09K: とにかく北に行こうと思ったんですよ、そのときは。

(158) 15E: でも、きのうはね、ぜったいね、時間通りに。<間>

15A: すごいじゃん。

15E: あたしがうるさくゆうから。<笑い・複>後ろでね、★チェックしてるから。

(159) 01A: 電話すればいいじゃん。教えてあげようか↑、連絡先。

01C: 遅くまででてきたらやだもん。

(157) は普通でいう旅行はスウェーデンに行く旅行ではないという話者の判断を表す用例である。(158) はいつも遅刻してくる子が時間通りに来たことに対し、プラスの評価を表す用例である。(159) は話し相手に助言し、自分のアドバイスを述べる用例である。

5.3.3 確認の「じゃん」

この節において、確認を表す「じゃん」の用例を見る。

(160) 03A: じゃ、入るよ。ジャイアンツ戦だって、あの一、ネット裏以外で見たことないもん。

03B: そんなこと★ゆってないじゃん。

03A: <笑いながら>→さんざん←ゆってるよー。

03B: そうかなー、でもあたしに手配は1枚もしてくれない

(160) は話者自身が「そんなこと、言っていない」と聞き手に確認をしている用例である。

以上、職場コーパスとCSJにおいて、発見、提示と確認を表す「じゃん」の用例が収集できたが、「(よ) うじゃん」の形をとっている用例と推測を表す用例は収集できなかった。

「(の) ではないか」に比べ、「じゃん」は意味・用法的にかなり限定されていることが分

かる。

5.4 おわりに

本章では、「(の) ではないか」の類義表現である「じゃん」について、職場コーパス、CSJ、及びCEJC という3つの話し言葉コーパスを用いて、その実態調査を行った。結論として、「じゃん」、「じゃんか」と「じゃんね」の3つの形式のうち、「じゃん」が最も使われやすい。そして、調査時において、「じゃん」は20代の若い人に多用されることが言える。

そして、実態調査の後で、職場コーパス、CSJの用例を分析し、使用される「じゃん」の用法をみた。その結果は次の表53になる。

表53 「じゃん」のデータ集計

用法	職場コーパスの用例数	CSJの用例数
発見	7	4
提示	判断の提示	26
	評価の提示	1
	意見の提示	5
確認	78	5
意志の提示	0	0
勧誘	0	0
推測	0	0
合計	120	41

「(の) ではないか」と「じゃん」は重なる用法もあるが、「(の) ではないか」に比べ、「じゃん」は意味・用法的にかなり限定されていることが分かる。

終章

本研究では、否定疑問文「(の)ではないか」という形式、及びその類似表現である「じゃん」について考察した。主に2形式の使用実態を調査し、実際に用いられる用例の分析を行い、それぞれの用法を明らかにした。その結論は以下の通りである。

i 「(の)ではないか」にはバリエーションが多くある。そして、バリエーションごとの使用頻度も使用傾向も異なり、それぞれの特徴がある。しかし、今回は書き言葉コーパスのみで調査を行った。今後の課題として、CSJ、名大会話コーパス、及びCEJCも使用し、「(の)ではないか」について調査を行い、そのバリエーションを全般的に把握することが考えられる。

そして、実際に使用されている用例の分析により、「(の)ではないか」の細かい用法まで網羅したと考えているが、言葉は常に変化するものであり、今後もその発展を追っていきたい。

最後に、「(の)ではないか」は否定疑問文でもあり、確認要求表現としても使われ、モダリティの性格を持っている。本研究では、それを否定疑問文と見なし、確認要求の他に、更に細かい用法がたくさんあることを明らかにした。そのため、「(の)ではないか」の位置づけをどのようにするかはまだ迷いがあり、今後の課題に譲る。

ii 「じゃん」は「(の)ではないか」と違い、あまりバリエーションがなく、「じゃん」、「じゃんか」と「じゃんね」という3つの形に限られる。本研究では、この3つの形式の相違点について考察していないが、3者の間には共通しているところもあるが、重ならない部分も存在するはずである。今後は「じゃんか」と「じゃんね」の用例を分析し、3形式の特徴を明らかにする。

そして、今回の調査で、「じゃん」は広い年齢層に渡り使用されているが、特に20代による使用が多いことが分かった。今後は年齢差、男女差の他に、出身地の差についても調査を行いたい。

iii 「(の)ではないか」と「じゃん」の重なる用法として、発見、提示と確認の3つがある。東京方言話者(松丸氏)の内省によると、「じゃん」は上昇イントネーションをとることで、推測にも使えるとなっているが、今回の調査では、そのような用例はなかった。今後は用例の数を増やし、または、東京方言話者を対象に、アンケート調査を行い、「じゃん」への理解を深めたい。

iv 筆者は修士論文において、「(の) ではないか」の中国語訳について調査したが、「じゃん」の場合はどうなるのか。「(の) ではないか」と同じように、「不是……吗」に翻訳されるのか、それとも、違う表現が使用されるのか。今後、日中の対照研究も行いたい。

謝辞

本論文をまとめるにあたり、始終適切な助言を賜り、暖かく見守ってくださった高橋雄一教授に厚く感謝の意を表します。論文の書き方、構成、言葉づかい及び例文の分析等、何から何まで、ご指導いただき、本当にありがとうございます。

また、コーパスから用例を収集する際に、丸山岳彦教授に検索方法などをお教えいただき、ここに感謝いたします。そして、論文の書き方に適切な助言をくださった阿部貴人教授に感謝の意が絶えません。さらに、松本泰丈教授からもいろいろ助言をいただき、ここに深い感謝の意を申し上げます。

最後に、同窓生の皆さん、大学院生の方々など研究室のメンバーには常に激励を頂き、精神的にも支えられました。本当にありがとうございました。

参考文献

- 安達太郎 (1992) 「「傾き」を持つ疑問—情報要求から情報提供へ—」『日本語教育』77
日本語教育学会
- 安達太郎 (1999) 『日本語研究叢書 11 日本語問句における判断の諸相』くろしお出版
- 安達太郎 (2002) 「第 5 章 質問と疑い」『新日本語文法選書 4 モダリティ』くろしお出版
- 石川慎一郎 (2012) 『ベーシックコーパス言語学』ひつじ書房
- 大堀壽夫 (2005) 「日本語の文法化研究にあたって」『日本語の研究』第 1 巻 3 号
- 井上史雄 (1998) 『日本語ウォッチング』岩波書店
- 井上史雄 (2008) 『社会方言学論考—新方言の基盤—』明治書院
- 井上優 (1994) 「いわゆる非分析的な否定疑問文をめぐって」『国立国語研究所報告 107
研究報告 15』国立国語研究所
- グループ・ジャマシイ (1998) 『教師と学習者のための日本語文型辞典』くろしお出版
- 小池清治 (2002) 『日本語表現・文型事典』朝倉書店
- 近藤雅恵 (2010) 「文献にみるデハナイカ」『日本語形態の諸問題—鈴木泰教授東京大学退
職記念論文集』ひつじ研究叢書<言語編>第 89 巻 ひつじ書房
- 佐藤雄亮 (2010) 「[のではないか]における[質問]と[疑い]の差異—BCCWJ の用法分析から
—」『日本語文法』日本語文法学会 10 巻 2 号 くろしお出版
- 砂川有里子編 ; 滝沢直宏 [ほか] 著 (2016) 『コーパスと日本語教育』朝倉書店
- 高橋太郎 (2005) 『日本語の文法』ひつじ書房
- 田中章夫 (1983) 『東京語—その成立と展開—』明治書院
- 田野村忠温 (1988) 「否定疑問文小考」『国語学』152 国語学会
- 田野村忠温 (1990) 『現代日本語の文法 I—「のだ」—の意味と用法』和泉選書
- 田野村忠温 (1991) 「疑問文における肯定と否定」『国語学』164, 国語学会
- 田村貞雄 (2000) 「「ええじゃないか」研究の現状と問題点」『幕末維新論集 5 維新変革と
民衆』吉川弘文館
- 張 興 (2004) 「『ではないか』の用法について」『世界の日本語教育』14 凡人社
- 張 興 (2006) 「『のではないか』と“是不是”の対照研究」『日中言語対照研究論集』8
日中対照言語学会
- 張 興 (2008) 『“要求確認”表現形式の日漢対比研究』外語教学與研究出版社
- 仁田義雄・益岡隆志 (1989) 『日本語のモダリティ』くろしお出版社

- 仁田義雄 (1992) 「判断から発話・伝達へ—伝聞・婉曲の表現を中心に—」 日本語教育 77,
日本語教育学会
- 仁田義雄 (1992) 『日本語のモダリティと人称』 ひつじ書房
- 仁田義雄・益岡隆志・工藤浩 (2000) 『日本語の文法 3 モダリティ』 岩波書店
- 日本語教育学会 (1982) 『日本語教育事典』 大修館書店
- 日本語記述文法研究会(編) (2003) 『現代日本語文法 4 第8部 モダリティ』 くろしお出版
- 日本語文法学会 (2014) 『日本語文法事典』 大修館書店
- 野田春美 (1997) 『の(だ)の機能』 日本語研究叢書 9 くろしお出版
- ハイコ・ナロック (2005) 「日本語の文法化の形態論的側面」 『日本語の研究』 第1巻3号
- 蓮沼昭子 (1993) 「日本語の談話マーカー「だろう」と「じゃないか」の機能—共通認識喚起の用法を中心に—」 第1回小出記念日本語教育研究会論文集
- 蓮沼昭子 (1995) 「対話における確認行為『だろう』『じゃないか』『よね』の確認用法」 仁田義雄, 『複文の研究(下)』, くろしお出版社
- P・J ホッパー/E・C トラウゴット (著) (日野資成訳) (2003) 『文法化』 九州大学出版会
- 前田勇 (1977) 『大阪弁』 朝日選書 80 朝日新聞社
- 松丸真大 (2001) 「東京方言のジャンについて」 阪大社会言語学研究ノート 3
- 松丸真大 (2006) 「方言における確認要求表現の対照研究にむけて」 『日本のフィールド言語学—新たな学の創造にむけた富山からの提言』 桂書房
- 松丸真大 (2007) 「「確認要求表現」とその分布—否定疑問形式を中心に—」 日本語学 26 巻 11 号
- 松丸真大 (2009) 「確認要求表現からみた日本海沿岸地域の特徴」 『日本海沿岸社会とことば』 桂書房
- 松丸真大 (2010) 「確認要求表現からみた日本海沿岸地域の特徴」 『東アジア内海の環境と文化』 桂書房
- 松丸真大 (2012) 「日本語の攻防 言語変種 確認要求表現の広がり」 日本語学 31 巻 6 号
- 松村明 (1971) 『日本語文法大辞典』 明治書院
- 嶺田明美 (2000) 「愛知県東部方言における文末詞についての研究」 『学苑』 718 昭和女子大学近代文化研究所

- 嶺田明美 (2001) 「愛知県東部方言における文末詞についての研究 (2)」『学苑』729 昭和
女子大学近代文化研究所
- 三宅知宏 (1994) 「否定疑問文による確認要求的表現について」『現代日本語研究』1 大阪
大学文学部日本語学科
- 三宅知宏 (1996) 「日本語確認要求的表現の諸相」『日本語教育』89 日本語教育学会
- 三宅知宏 (2005) 「現代日本語における文法化」『日本語の研究』第1巻3号
- 宮崎和人 (1996) 「否定疑問文の述語形態と機能—「(ノ)デハナカッタカ」の位置づけの検
討—」『国語学』194 国語学会
- 宮崎和人 (1996) 「確認要求表現と談話構造」『岡山大学文学部紀要』25 岡山大学文学部
- 宮崎和人 (2000) 「確認要求表現の体系性」『日本語教育』106 日本語教育学会
- 宮崎和人 (2001) 「認識のモダリティとしての〈疑い〉—「ダロウカ」「ノデハナイカ」—」
『国語学』52-03 国語学会
- 森篤嗣・庵功雄 (2011) 『日本語教育のための多様なアプローチ』ひつじ書房
- 森山卓郎 (1989) 「コミュニケーションにおける聞き手情報—聞き手情報配慮非配慮の理論
—」『日本語のモダリティ』くろしお出版
- 森山卓郎 (1995) 「ト思う、ハズダ、ニチガイナイ、ダロウ、副詞—不確実だが高い確信
があることの表現—」宮島達夫・仁田義雄編2『日本語類義表現の文法(上)単文編』
くろしお出版社
- 森山卓郎 (2000) 『ここからはじまる日本語文法』ひつじ書房
- 森山卓郎・仁田義雄・工藤浩 (2000) 『日本語の文法3 モダリティ』岩波書店
- 山口明穂・秋元守英 (2001) 『日本語文法大辞典』明治書院
- 山口佳也 (2011) 『「のだ」の文とその仲間 文構造に即して考える』三省堂
- 山口佳也 (2016) 『「のだ」の文とその仲間・続編 文構造に即して考える』三省堂
- 山本剛史 (2010) 「愛知県東部地方(東三河地方)における「ジャン」の用法」方言・音
声研究4 方言・音声研究会
- 凌 飛 (2010) 『「ではないか」の用法及びその中国語訳についての一考察』 修士論文
天津外国語大学
- 凌 飛 (2016) 「「(の)ではないか」の使用状況についての考察—会話コーパスを利用して
—」『専修国文』第99号
- 凌飛 (2018) 「「(の)ではないか」の各用法間の関係について」『専修国文』第102号

凌飛 (2020 刊行予定) 「BCCWJ による「(の) ではないか」の実態調査—非縮約形のバリエーションを中心に—」『専修国文』第 106 号

参考資料

『現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)』国立国語研究所

『女性のことば・男性のことば (職場編)』2011.5 現代日本語研究会 ひつじ書房

『中日対訳コーパス』CDROM 版 2003.7 第一版 北京日本語研究センター企画・開発
研究代表者徐一平、馮志偉、嚴安生

『日本語話し言葉コーパス (CSJ)』国立国語研究所

『日本語日常会話コーパス CEJC』国立国語研究所